

MATSUSHIRO CASTLE-TOWN RUINS 2ND

松代城下町跡(2)

～殿町～

八十二銀行松代支店新築工事にともなう
埋蔵文化財発掘調査報告書

2005年3月

長野市教育委員会

序

長野市は、彩り豊かな山並みを仰ぎ、千曲川・犀川の大河に抱かれた肥沃の地に、悠久の歴史を刻んでいます。特に松代町は、昭和56年に国史跡に指定された松代城跡をはじめとする「史跡の町」として、全国的にも有数の観光拠点となっております。平成7年度から始めた松代城跡の環境整備事業も平成16年4月に完成し、それを契機として「エコール・ド・まつしろ2004」と題する生涯学習イベントを開催しました。「エコール」とは、フランス語で「学校」という意味です。松代町全体を「趣味や生涯学習を楽しむ学校」として、来訪者に対して伝統芸能や武道などの公開や様々なおもてなし活動を行っております。活動を通して、地元と来訪者が楽しみ遊びながら学べる新しい観光地像を模索しています。

松代城下町は、真田10万石松代藩の城下町として、史跡松代城跡や象山神社などの著名な史跡のみならず、武家屋敷や神社仏閣などの町並みが往時の風情を今に残している、まさに町全体が「まるごと野外博物館」と言えるでしょう。このたび、八十二銀行松代支店が新築移転されることとなり記録保存を目的とした発掘調査を実施しました。ここに長野市の埋蔵文化財第110集として刊行いたします本書には、発掘調査によって得られた成果を詳しく掲載しております。調査成果は連続と綴られてきた人々の歴史のほんの一部にすぎませんが、地域史解明の一助としてお役立ていただければこの上ない喜びであります。

最後になりましたが、埋蔵文化財保護に対する深いご理解とご協力、ならびに発掘調査に際して多大なご尽力を賜りました株式会社八十二銀行本店総務部および松代支店の各位、近隣地元の皆様、そして建築工事を請け負われた建設業関係者、発掘作業に携わっていただきました地元発掘作業員の皆様、また、報告書刊行に至るまでご支援・ご指導賜りました関係機関・諸氏に厚く御礼申し上げ、本書の上梓をもってご挨拶にかえさせていただきます。

平成17年3月

長野市教育委員会
教育長 立岩 睦秀

例 言

- 1 本書は、長野県長野市松代町松代における民間開発事業「八十二銀行松代支店新築工事」に先立ち実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査事業は、委託者 株式会社八十二銀行 取締役頭取 成澤一之 と、受託者 長野市長 鷲澤正一との埋蔵文化財発掘調査委託契約に基づき、平成15～16年度にかけて長野市教育委員会（文化財課埋蔵文化財センター担当）が実施した。
- 3 発掘調査地籍は、長野県長野市松代町松代（字殿町）174-1番地ほかである。開発事業の総面積約1,764㎡のうち、その全域を埋蔵文化財保護対象面積とし、うち建物部分390㎡を発掘調査の実施対象範囲とした。現地における発掘調査は平成15年度に実施し、整理調査は平成16年度に実施した。
- 4 現場における発掘調査は矢口の指導の下飯島が担当し、山野井が補助した。整理調査および本書の編集は飯島が担当し、各調査員・作業員が作業を分担した。執筆分担は目次に示してある。
- 5 発掘調査の実施に際し、事業委託者である株式会社八十二銀行におかれては、埋蔵文化財に対して深いご理解をいただき絶大なご協力を賜った。また保護協議、現場および整理作業において下記の方々・機関より有益なご指導・ご助言をいただいた。深甚なる謝意を表し明記するものである。（敬称略）
株式会社八十二銀行 本店総務部 小林健一副部長、宮島博男グループ長、町田源治郎調査役、塩川 敬
株式会社エーシーエ設計 設計部 洗川好文部長、小林 徹チーフ
長野県厚生農業協同組合連合会 長野松代総合病院 村松友雄事務長、松澤俊宏施設課長
株式会社アルカ 代表取締役 角張淳一、研究部土器課長 西本正憲
- 6 調査によって得られた諸資料は、長野市教育委員会文化財課埋蔵文化財センターで保管している。なお、出土遺物の注記記号は、「MJ 82」と英数字で表記してある。
- 7 本書における資料掲載の要領は下記のとおりである。
 - (1) 基準点測量および遺構測量は、平面直角座標系の第Ⅱ系の座標値（旧日本測値系）と日本水準原点の標高を基準とした。
 - (2) 検出した遺構の略記号については、調査時に遺構の性格や機能についてが不明であったことから、発見順に番号を付している。例として「①-1」は「第1次遺構検出面の1号遺構」という意味である。
 - (3) 遺物に関しては、原寸で実測図を作成した。本書では基本的に土器・陶磁器実測図1/4に統一してあるが、遺物の種類によってはこの限りではないため縮尺を明示してある。

本文目次

序文、例言、目次

第Ⅰ章 調査の経過	(飯島) ... 1
第1節 保護協議経過	1
第2節 調査日誌抄	2
第3節 調査体制	2
第Ⅱ章 発掘調査成果	(飯島) ... 3
第1節 発掘調査の概要	3
第2節 遺構と遺物	4
第Ⅲ章 まとめ	(飯島) ... 38
報告書抄録、奥付	

図版目次

第1図 周辺調査地位置図.....	1	第16図 2次面6号遺構出土陶磁器.....	18
第2図 1・2次面3次面遺構全体図	5	第17図 2次面7・9号遺構・検出面出土陶磁器・土器 ...	19
第3図 4次面遺構全体図.....	6	第18図 2次面出土陶磁器.....	20
第4図 2次面1～6号遺構.....	7	第19図 3次面10号遺構出土陶磁器・土器.....	21
第5図 2次面7～9号遺構.....	8	第20図 3次面10号遺構出土陶磁器.....	22
第6図 2次面7～9号遺構副木.....	9	第21図 3次面10号遺構出土陶磁器・土器・土製品 ...	23
第7図 3次面10・18～23・29～30号遺構.....	10	第22図 3次面10号遺構出土陶磁器・土器.....	24
第8図 3次面11・12号遺構	11	第23図 3次面10号遺構出土陶磁器.....	25
第9図 4次面1号遺構.....	12	第24図 3次面10号遺構出土陶磁器・土器.....	26
第10図 4次面6号遺構.....	12	第25図 3次面10・11号遺構出土陶磁器・土器 ...	27
第11図 1次面1号遺構出土陶磁器.....	13	第26図 3次面11・14・16・17号遺構出土陶磁器・土製品 ...	28
第12図 1次面1・3号遺構・検出面出土陶磁器	14	第27図 3次面20・23号遺構出土陶磁器・土器 ...	29
第13図 1次面出土陶磁器・土器.....	15	第28図 4次面1・2・6・24号遺構出土陶磁器 ...	30
第14図 2次面1・2・3号遺構出土遺物.....	16	第29図 金属・骨角・ガラス製品.....	35
第15図 2次面4・5・6号遺構出土陶磁器.....	17	第30図 松代城下町の土地利用図.....	39

第 I 章 調査経過

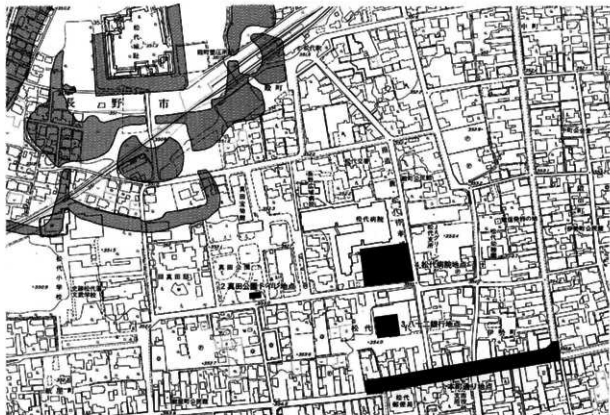
第 1 節 調査に至る経過

調査地は、埋蔵文化財包蔵地「松代城下町跡」範囲内に立地する。現況では、食料品スーパーの西友松代店や他の小規模店舗が同居する松代ショッピングセンターが存在した場所である。平成14年夏頃に西友松代店が営業を停止して以来、その敷地の一部を長野県厚生農業協同組合連合会長野松代病院の駐車場として利用される他は建物の残る空き地であった。

この地に株式会社八十二銀行松代支店新築移転が計画され、平成15年7月2日、開発側の設計担当者から埋蔵文化財の取り扱いについて照会があった。開発予定地は「松代城下町跡」範囲内であることから、遺跡が破壊される範囲について記録保存の為の発掘調査が必要となり、それに先だって、現在の埋蔵文化財包蔵状況を確認するため試掘調査を行うこととなった。同年7月22日、埋蔵文化財試掘調査依頼書および土地所有者の承諾書を受領した。同年7月28日に試掘調査を実施し、埋蔵文化財の包蔵を確認した。

同年8月8日「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の届出書」および「埋蔵文化財発掘調査依頼書」「土地所有者の承諾書」が提出され、同年9月26日付けで事業全体に関わる「埋蔵文化財発掘調査協定書」、平成15年度分の「埋蔵文化財発掘調査委託契約書」を締結した。

発掘調査は平成15年10月1日より開始し、同年11月6日に終了した。発掘調査対象地は、全事業面積1,764㎡のうち建物を建築する部分の390㎡であった。



第 1 図 周辺調査地位置図

第2節 調査日誌

【平成15年度 八十二銀行松代支店新築移転に伴う発掘調査】

9月30日	プレハブ設置、準備	24日	掘り下げ
10月1日	重機による表土掘削開始	27日	遺構掘削
6日	作業員による作業開始	29日	③次面全景写真撮影、遺構測量
7日	①次面・②次面遺構検出	30日	掘り下げ
14日	①次面・②次面全景写真撮影、遺構測量	11月4日	④次面遺構検出
20日	③次面遺構検出	5日	④次面全景写真撮影、遺構測量
23日	③次面全景写真撮影、遺構測量	6日	作業終了

第3節 調査体制

本調査は長野市長 鷲澤正一が受託し、長野市教育委員会の直轄事業として長野市埋蔵文化財センター（文化財課埋蔵文化財センター）が実施し、その組織は以下のとおりである。

調査主体者	長野市教育委員会	教育長	立岩 睦秀
調査機関	長野市埋蔵文化財センター	副参事兼所長	磯野 久夫（～H15年度）
		局主幹兼所長	矢口 忠良（H16年度～）
庶務担当	係長 山岸 恒雄	事務員	吉村 久江
		事務員	塚田 容子
調査担当	係長 青木 和明	専門員	遠藤恵実子
	主査 飯島 哲也（調査主任）	専門員	長瀬 出
	主査 風間 栄一（H15年度主事）	専門員	山野井智子（調査員）
	主事 小林 和子	専門員	藤原 崇志（～H15年度）
	専門員 小野由美子（～H15年度）	専門員	石丸 敦史
	専門員 堀内 健次	専門員	小出 泰弘
	専門員 宮川 明美（～H15年度）	専門員	森田 利枝
	専門員 清水 竜太	専門員	宮沢 浩司（報告書編集）
	専門員 山下 大輔（～H15年度）	専門員	山岸 千晃
発掘参加者	青木正次 一色茂喜 内山弘子 内山善徳 海沼けい子 窪田節子 小宮山盛雄 坂口一誠		
	坂口美知子 多城恵子 多門睦夫 新田早智子 橋爪孝次 半田芳子 保坂豊子 丸山武雄		
	宮尾秋男 宮尾秀男		
整理調査員	青木善子 池田寛子 多羅沢美恵子 鳥羽徳子 中殿章子 武藤信子 矢口栄子		
整理作業員	倉島敬子 小泉ひろ美 清水さゆり 岡崎文子 富田景子 西尾千枝 三好明子 村松正子		
測量業務委託	株式会社写真測図研究所		
調査協力者	河西克造 北村典子 小林有英 宿野隆史 白沢勝彦 利根川淳子 原田和彦 降旗浩樹		

第Ⅱ章 発掘調査成果

第1節 調査概要

調査地は、神田川・蛭川・藤沢川などによって形成された合流複合扇状地の、扇端部にあたる緩傾斜地に位置し、千曲川氾濫原に接している。このため調査地付近の基本層序は、上記3河川の扇状地堆積物と千曲川による氾濫原堆積物が主体をなす。

当該起回事業の全事業面積1,764㎡のうち、建物を建築する部分の390㎡について発掘調査対象地とし、残りの駐車場予定部分は現状保存の措置とした。調査では4面の遺構検出面を確認した。

第1次遺構検出面（以下、①次面）は、カクラン除去後の現地表下約80cm付近に設定した。この面にて確認した遺構は、明治～昭和時代初期にかけての所産と考えられるが、一部コンクリート片を含む現代の掘り込みの痕跡も存在している。よって現代の掘り込みを1次面に伴う遺構とし、明治から昭和初期と想定される遺構を第2次遺構検出面（以下、②次面）に伴う遺構とした。

第3次遺構検出面（以下、③次面）は、現地表下約120cmの焼土層下面に設定した。第4次遺構検出面（以下、④次面）は、現地表下約150cmに設定した。これより下層はグライ化した青灰色の砂質土層と粘質土層が互層となり埋蔵文化財は存在しない。

遺構番号 面・遺構	距番号 面・遺構	性格	備考	時代	出土遺物
①-1	①-1	板状遺構	地下埋設コンクリート施設、板組で周囲を上留め	昭和	第11・12回
①-2	①-2	溝状遺構	石・コンクリートの埋土、建物基礎か？		第12回
①-3	①-3	溝状遺構	石造ガラの埋土		
①-4	①-4	溝状遺構	石・コンクリートの埋土、建物基礎か？		
①-5	①-5	溝状遺構	石造ガラの埋土		
①-6	①-6	溝状遺構	石・コンクリートの埋土、建物基礎か？	明治 昭和 昭和 初期	
②-1	②-1	堀状遺構	石・レンガ片の埋土		第14回
②-2	②-2	堀状遺構	石・レンガ片の埋土		第14回
②-3	②-3	堀状遺構	石・レンガ片の埋土		第15回
②-4	②-4	堀状遺構	石・レンガ片の埋土		第15回
②-5	②-5	堀状遺構	石・レンガ片の埋土		第15回
②-6	②-6	堀状遺構	石・レンガ片の埋土		第15・16回
②-7	②-7	石積み遺構	重要遺構（土蔵？）の基礎か？下に割木		第17回
②-8	②-8	石積み遺構	重要遺構（土蔵？）の基礎か？下に割木		第17回
②-9	②-9	石積み遺構	重要遺構（土蔵？）の基礎か？下に割木		
②-10	②-10	焼土層	②-7～9に隣接された範囲 上面・中・底面と分層	第19～25回	
②-11	②-11	石組み溝遺構	掘溝跡か？ 石造の痕跡あり	第25～26回	
②-12	②-12	石組み溝遺構	川・排水路？ 木造の痕跡あり		
②-13	②-13	土塊		昭和 明治 昭和 初期	第26回
②-14	②-14	土塊			
②-15	②-15	焼土層	②-7と同じ日の別の範囲 ②-10と同じ		
②-16	②-16	焼土層	②-8と同じより前部の範囲		
②-17	②-17	土塊	②-11より西側の範囲		
②-18	②-18	土塊	柱穴跡？ 小石の埋土で浅い		
②-19	②-19	土塊	柱穴跡？ 小石の埋土で浅い		
②-20	②-20	土塊	柱穴跡？ 小石の埋土で浅い		
②-21	②-21	土塊	柱穴跡？ 小石の埋土で浅い		
②-22	②-22	土塊	柱穴跡？		
②-23	②-23	土塊	柱穴跡？		
②-24	②-24	土塊	柱穴跡？		
②-25	②-25	土塊	柱穴跡？		
②-26	②-26	石列遺構	②-11に密着している 比較的大型石材		
②-27	②-27	石列遺構	②-28と同じか？		
②-28	②-28	石列遺構	②-27と同じか？		
②-29	②-29	石列遺構	②-27・28と異なり、②-7～9と同じ		
②-30	②-30	土塊	②-10内の石圍い土塊		
②-31	②-31	溝状遺構	②-10内		
②-32	②-32	溝状遺構	②-10内		
②-33	②-33	溝状遺構	②-10内		
②-34	②-34	土塊	②-10内 大型遺物の基礎か？		
②-35	②-35	土塊	②-10内 大型遺物の基礎か？		
②-3	②-3	埋め跡	丸縁	昭和 初期	第28回
②-4	②-4	埋め跡	塀門形の礎（前礎）		
②-24	②-24	土塊（溝状遺構）	②-1土塊と同じ遺構 ②-25埋土・炭化物が埋土		
②-25	②-25	埋め跡	丸縁・炭燐半分のみ、2が残存		
②-1	②-1	土塊（溝状遺構）	②-21付近と同一遺構 ②-26埋土・炭化物が埋土		
②-2	②-2	土塊	石圍い土塊 ②-30により破壊されている		
②-5	②-5	溝状遺構			
②-6	②-6	土塊（溝状遺構）	板列あり さらに西側にもう1基可能性あり 埋土は大型石材	第28回	
②-7	②-7	石組み溝遺構	掘溝跡か？	第28回	

第1表 検出遺構一覧表

第2節 検出遺構と出土遺物

1次遺構検出面 【遺構：第2回 (P.5)】 【遺物：第11回～第13回 (P.13～15)】

①次面の主な遺構としては、コンクリート壁を含む性格不明な板組遺構 (①-1遺構) と、石やコンクリート破片、または石炭ガラが詰まっていた溝状遺構 (①-2～6) を確認した。内部からは陶器甕とポピン巻きの生糸が出土している。①次面の遺構は、出土遺物から昭和期の遺構と考えられる。ただし①-1遺構はコンクリート壁の構架が、それ以前に構架・利用されていた板組遺構(地下室、ちかむろ)を再利用した可能性も考えられる。

2次遺構検出面 【遺構：第2, 4～6回 (P.5, 7～9)】 【遺物：第14回～第18回 (P.16～20)】

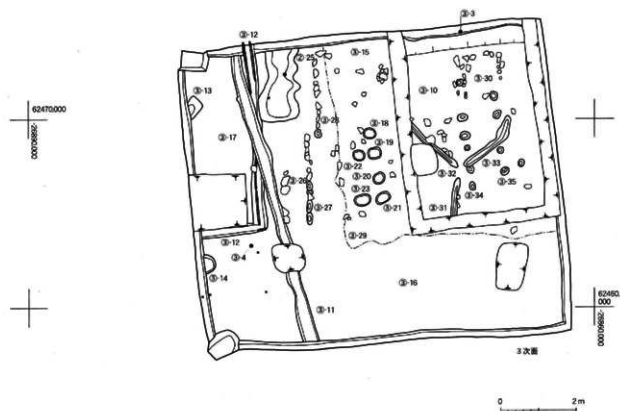
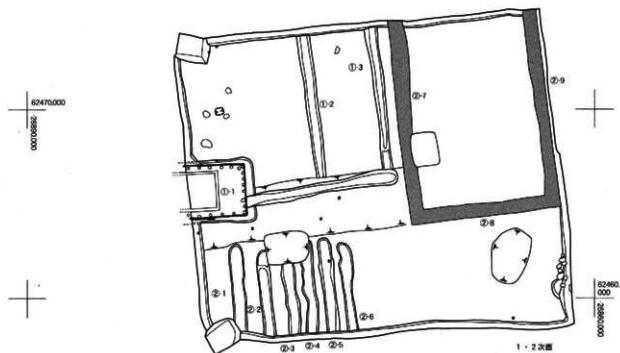
②次面では、石やレンガ片が詰まった暗渠状遺構 (②-1～6) や、土蔵などの重量系建物の基礎と考えられる石積み遺構が検出された。石積み遺構は東西約8m、南北約12m (推定) の規模であり、30～50cm前後の石材を石垣状に積み上げている。残りの良い部分では3段積み上げられており、裏込めには栗石を充填していた。積石の下には松の丸太を2本並べて置き、刷木としている。丸太は直径約10～20cmで、屈曲部分は石の楔を打ち込んで矯正した痕跡が認められる。堅杭は施していない。

3次検出遺構面 【遺構：第2, 7, 8回 (P.5, 10, 11)】 【遺物：第19回～第27回 (P.21～29)】

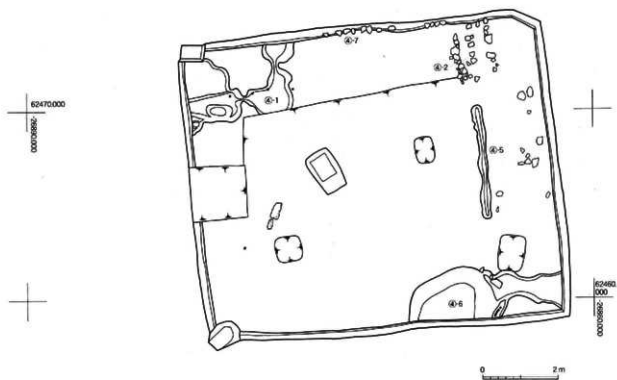
②-7～9遺構に閉鎖された範囲には明瞭な焼土層の堆積があり、③次面として設定した。遺物の混入量も多く、火災後の整地層と考えられる。焼土層下面の被熱面において礎石と柱穴を検出した。これらはほぼ90cmの間隔で配されており、何らかの建物遺構と考えられる。調査区の北東側に規則的に配され、石列などを作っている。建物の規模や構造については不明だが、位置関係からおそらく武家屋敷の母屋に一部となる可能性が考えられる。調査区西側では石組み溝遺構 (③-11) と木組み溝遺構 (③-12) が検出された。石組み溝遺構は10～20cm程度の小型石材を2列溝状に並べ、板石状の石材で蓋を架構していた部分も残存していた。規模・構造的には雨落ち溝としての性格が妥当と考えられるが、流路の軸が建物とは合致せず斜めとなっていることや、現存する絵図史料から、泉水路としての性格も考えるべきであろう。③-12は板状の木材を2本並列に配し、同じく木蓋を架構しているものである。底板がないことから排水施設としての機能が考えられるが、埋土に多量の瓦片が詰められていたことから廃絶時には暗渠化された可能性も考えられる。③-11に切られ、ほぼ直角に曲がり①-1に切られている。また地中に埋められたと考えられる桶が2個体出土した。③-3は丸桶で中から赤漆塗りの箸が出土した。③-4は楕円形の桶で底部のみの残存である。

4次遺構検出面 【遺構：第3, 9, 10回 (P.6, 12)】 【遺物：第28回 (P.30)】

現地表下約150cmに設定した④次面では、2箇所池状遺構と考えられる土坑 (④-1・6) が検出された。それぞれ護岸に枕列を伴っている。また④-1遺構には上層の焼土が落ち込んでおり、丸桶の底部 (④-25) が出土している。



第2図 1・2次面・3次面遺構全体図 (S=1/200)



第3図 4次面遺構全体図 (S=1/200)



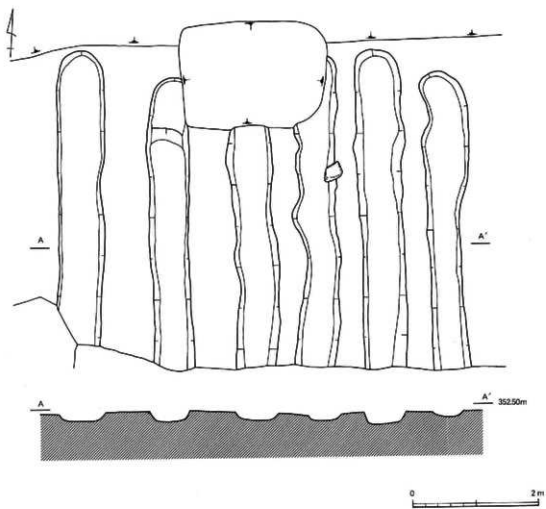
1・2次面



4次面



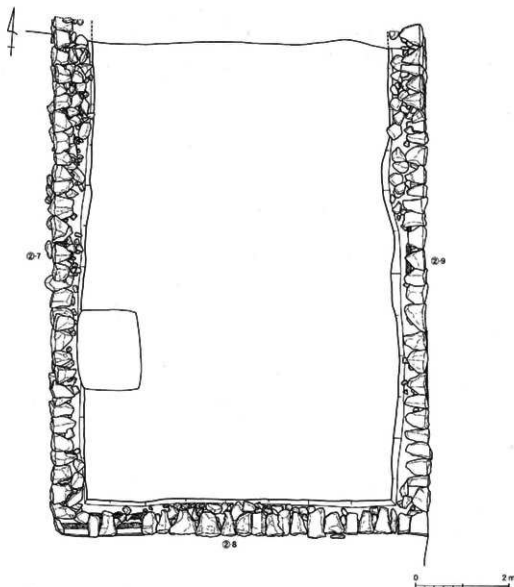
3次面



第4図 2次面1～6号遺構実測図 (S=1/60)



2次面1～6号遺構



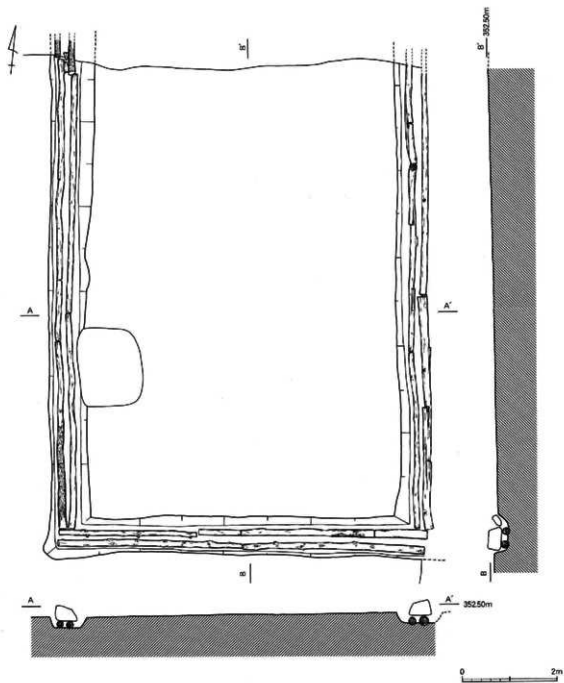
第5図 2次面7～9号遺構 (S=1/80)



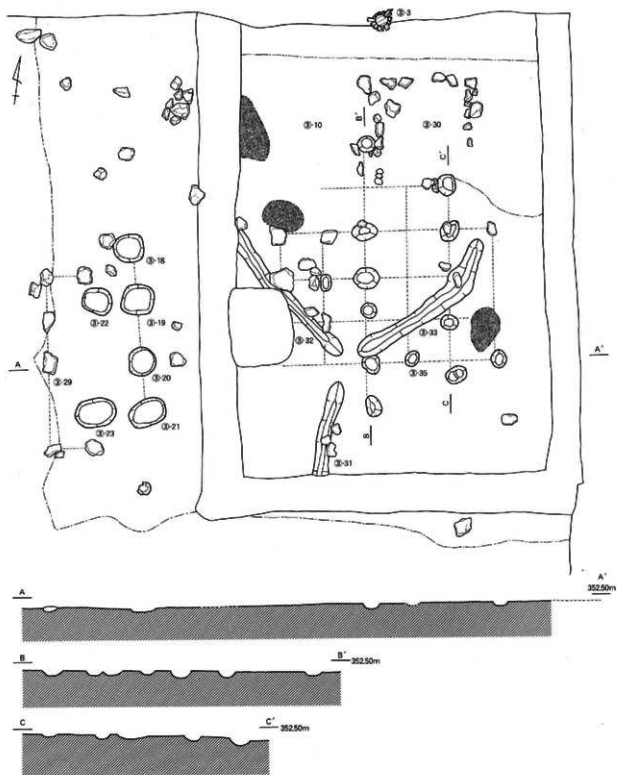
2次面7～9号遺構 (石積)



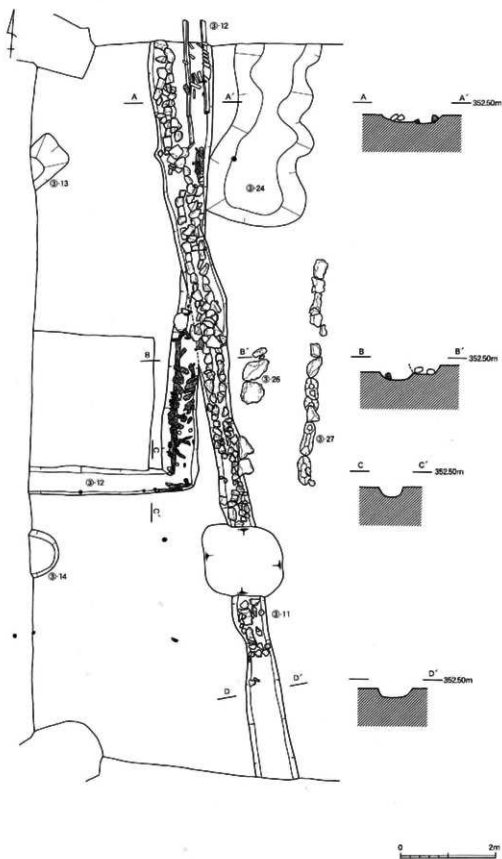
2次面7～9号遺構 (石積撤去)



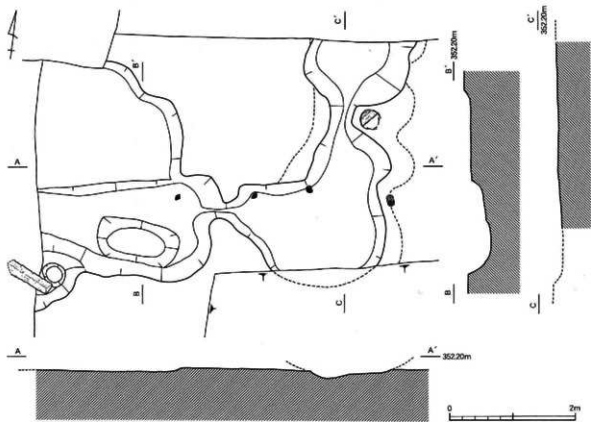
第6図 2次面7~9号遺構石積み下層刷木 (S=1/80)



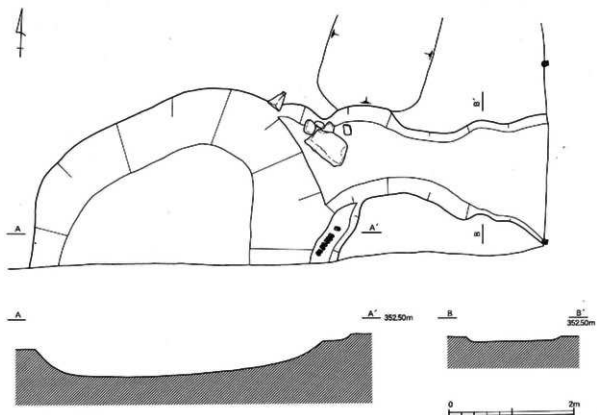
第7図 3次面10・18~23・29~35号遺構



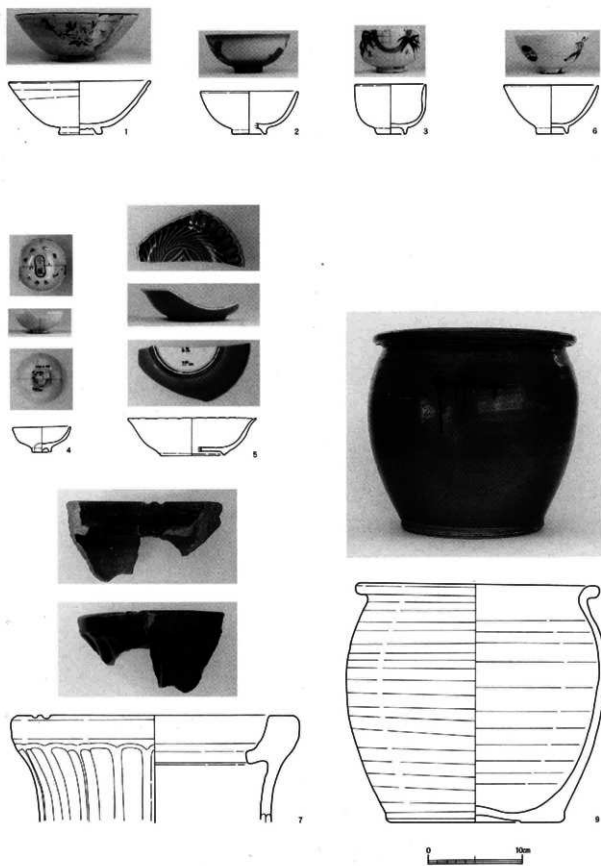
第8图 3次面11·12号遺構 (S=1/80)



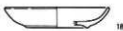
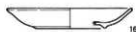
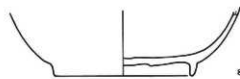
第9图 4次面11号遺構 (S=1/60)



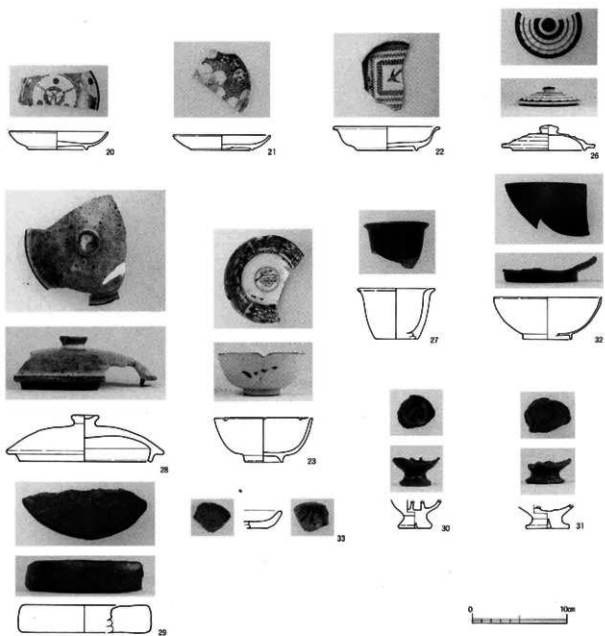
第10图 4次面6号遺構 (S=1/60)



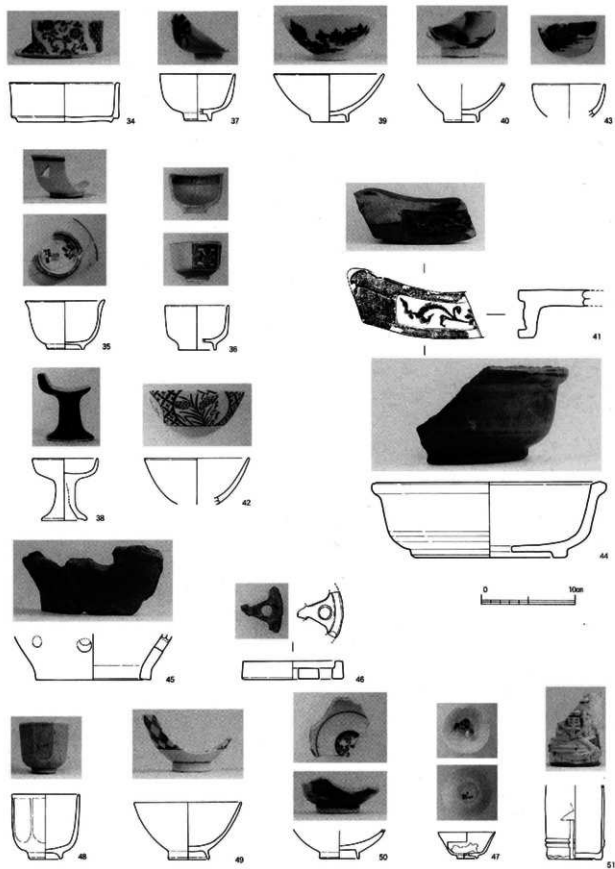
第11图 1次面1号遺構出土陶磁器 (S=1/4)



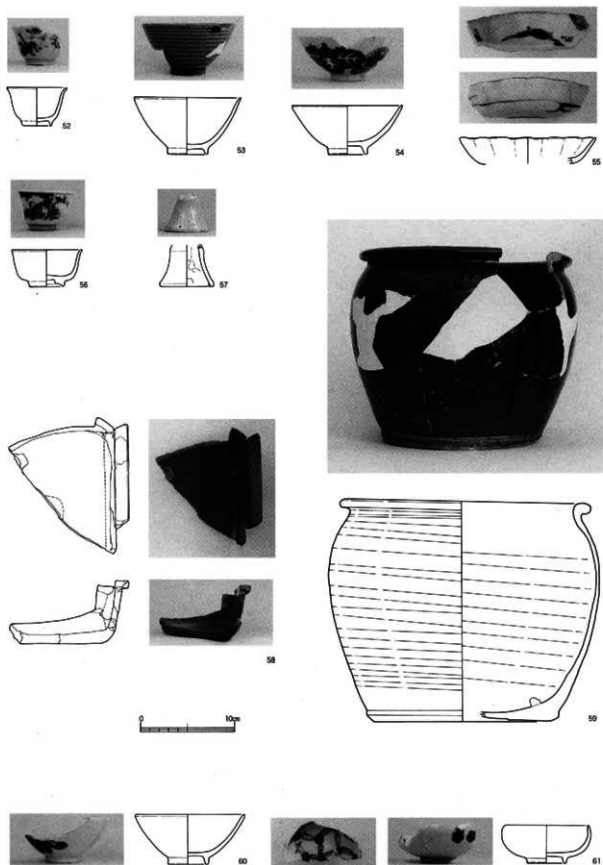
第12圖 1次面1・3号遺構・1次面出土陶磁器 (S=1/4)



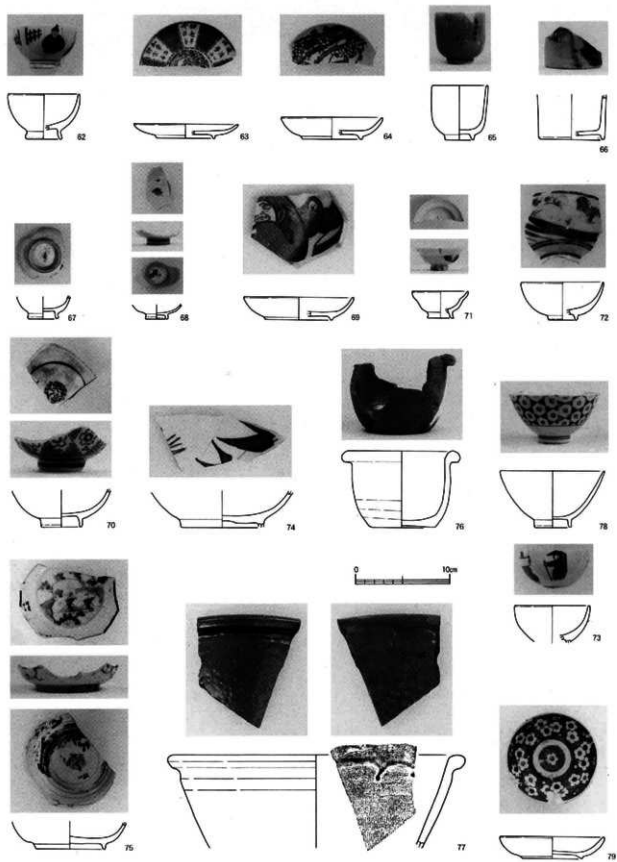
第13图 1次面出土陶磁器・土器 (S=1/4)



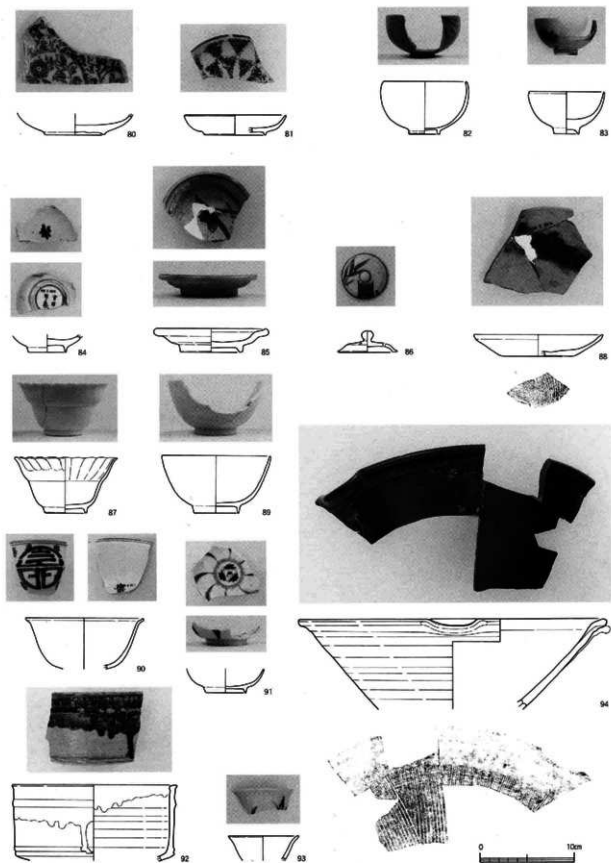
第14图 2次面1·2·3号遺構出土陶磁器·土器·瓦 (S=1/4)



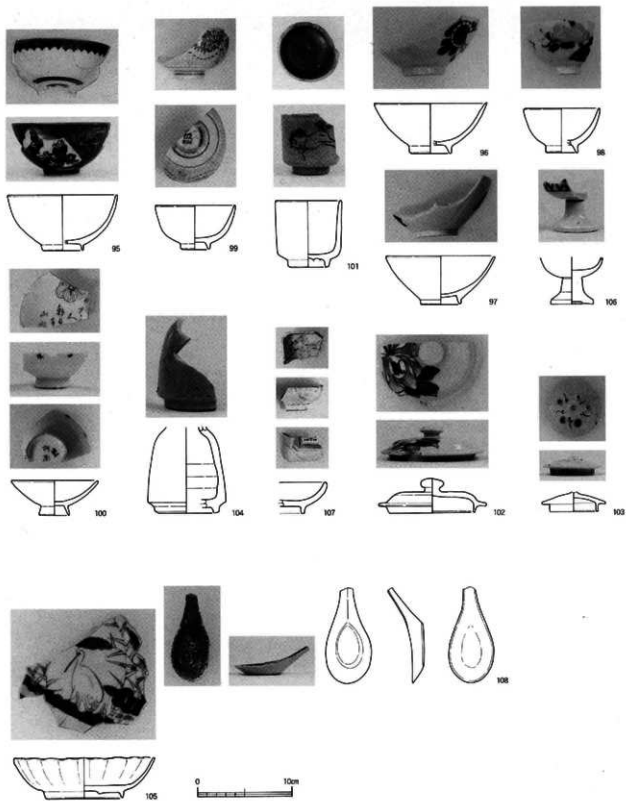
第15図 2次面4・5・6号遺構出土陶磁器 (S=1/4)



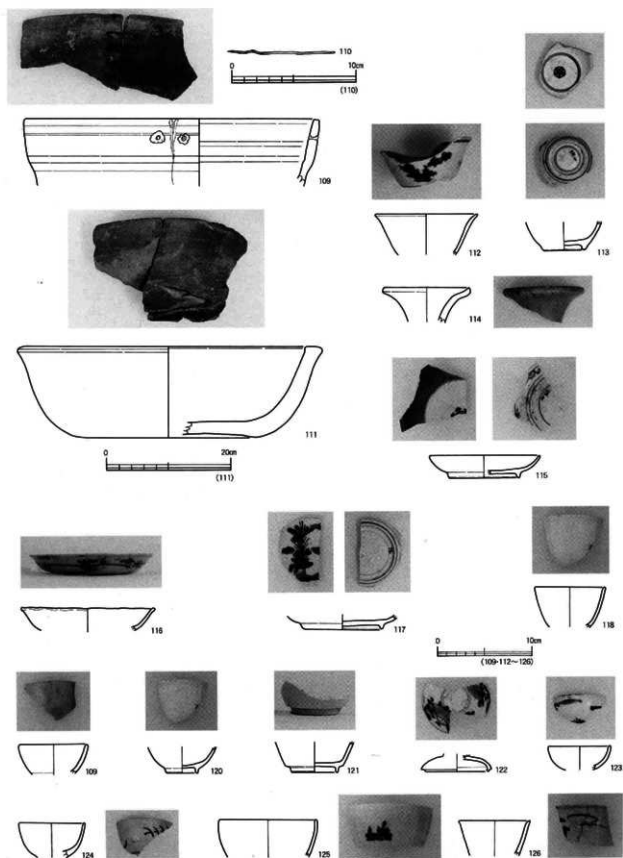
第16图 2次面6号遺構出土陶磁器 (S=1/4)



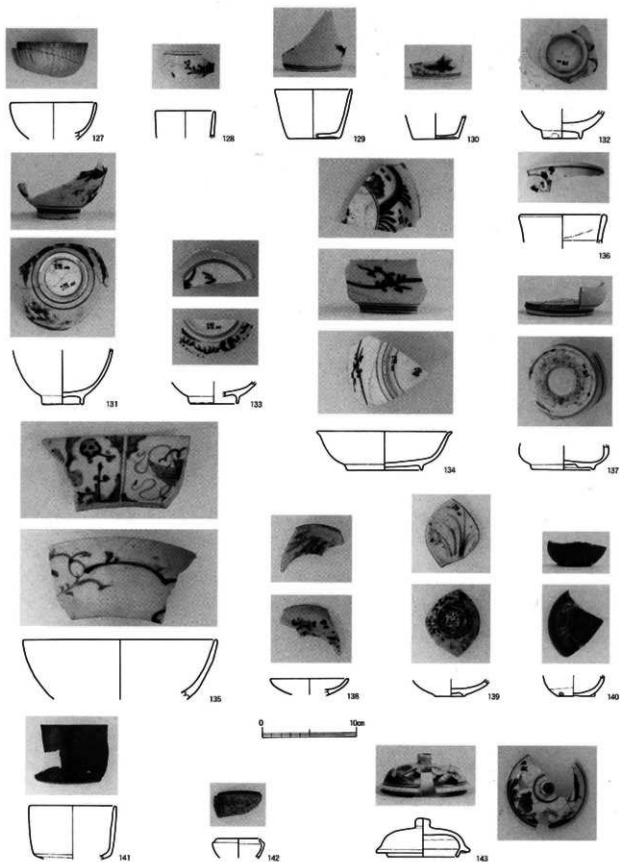
第17图 2次面7·9号遺構・2次面出土陶磁器・土器 (S=1/4)



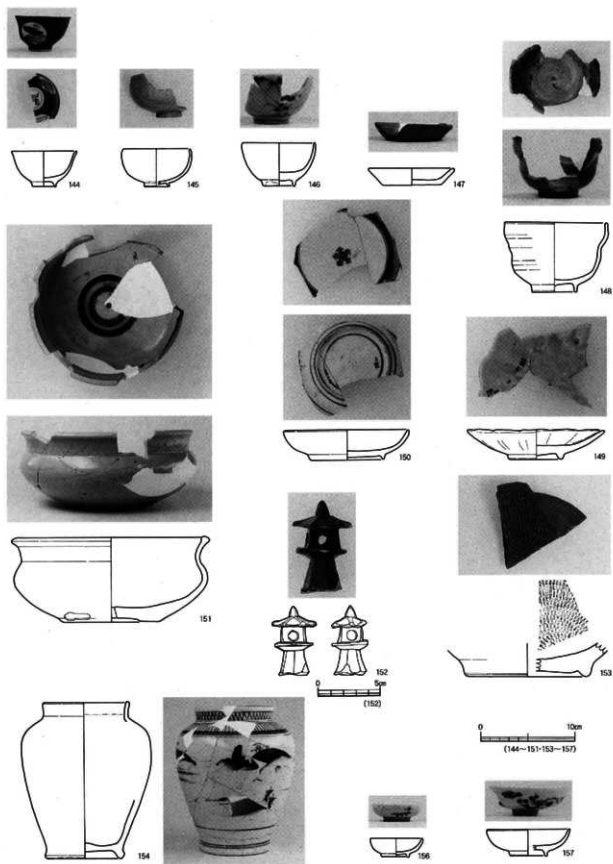
第18图 2次面出土陶磁器 (S=1/4)



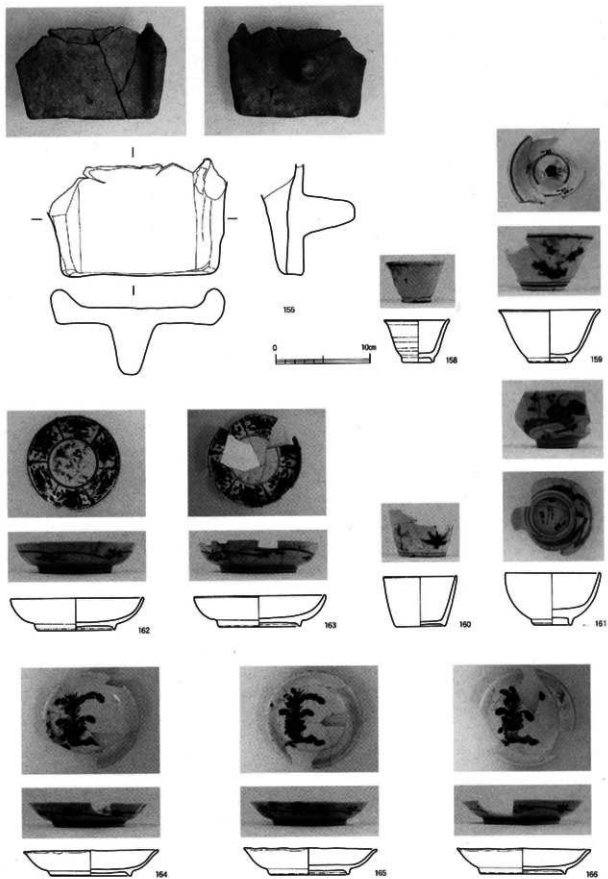
第19图 3次面10号遺構出土陶磁器・土器 (S=1/3・1/4・1/6)



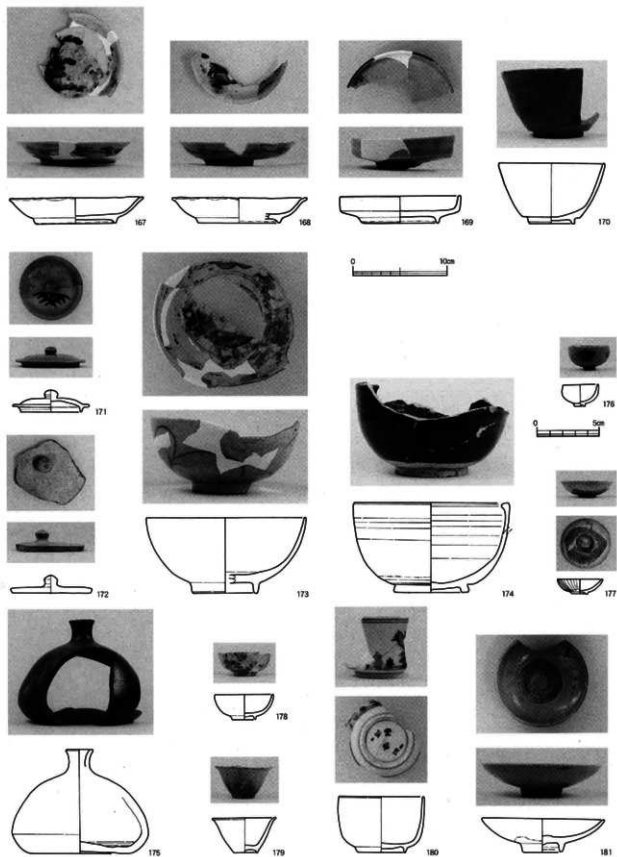
第20图 3次面10号遺構出土陶磁器 (S=1/4)



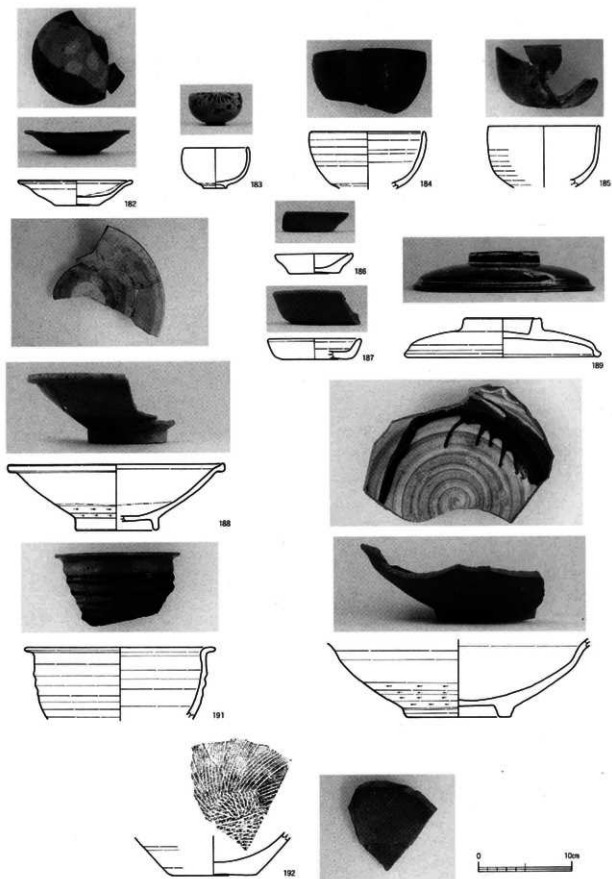
第21図 3次面10号遺構出土陶磁器・土器・土製品 (S=1/3・1/4)



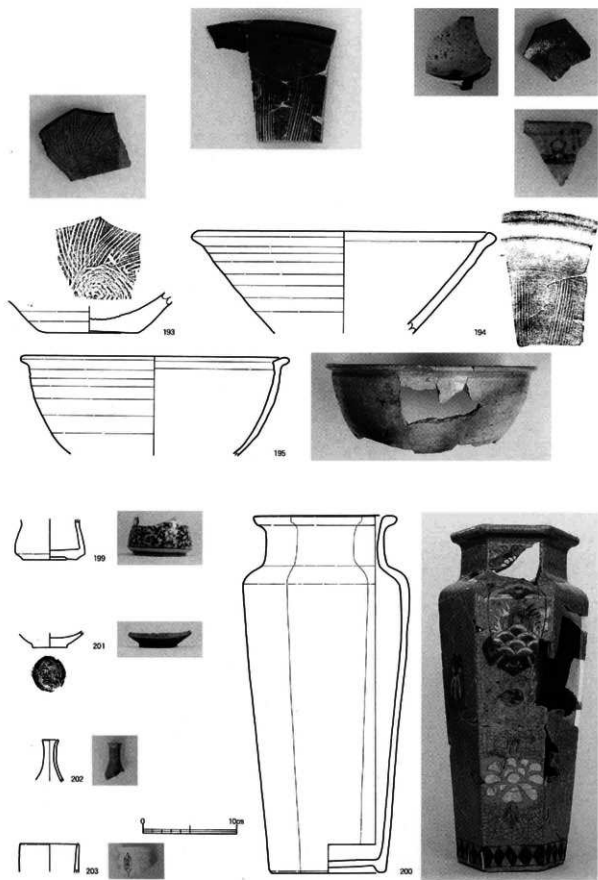
第22図 3次面10号遺構出土陶磁器・土器 (S=1/4)



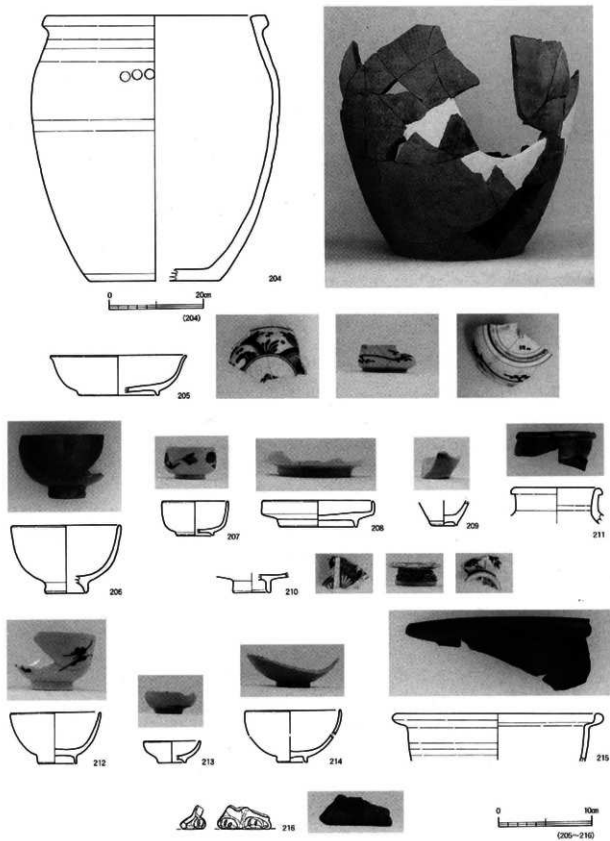
第23图 3次面10号遺構出土陶磁器 (S=1/4)



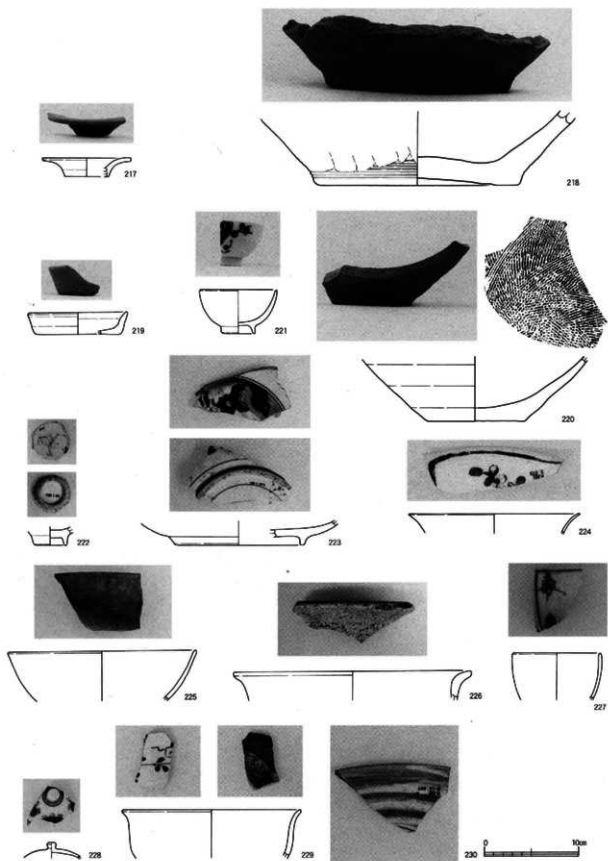
第24図 3次面10号遺構出土陶磁器・土器 (S=1/4)



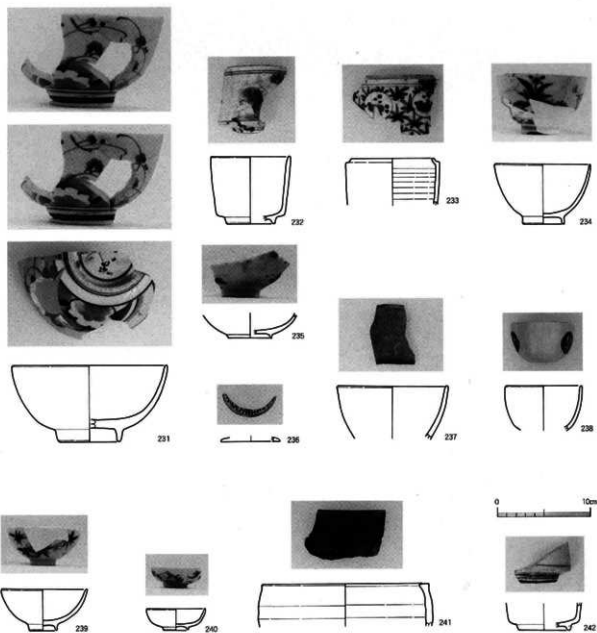
第25图 3次面10·11号遺構出土陶磁器・土器 (S=1/4)



第26図 3次面11・14・16・17号遺構出土陶磁器・土製品 (S=1/4・1/8)



第27図 3次面20・23号遺構出土陶磁器・土製品 (S=1/4)



第28图 4次面1・2・6・24号遺構出土陶磁器 (S=1/4)

松代城下町跡 (M J 82) 出土陶磁器観察表 (1)

品目 番号	出土地点 調査区	遺物名	種類	器種	保存率 全体	形状・文様・その他			備考 鑑定産地・年代			
						外面	内面	見込				
1	1区画	1号遺構	1	2	平丸瓶	90%	梅花文	口縁 重層線	-	高台内刻印あり・底部 裏面模	近・現代	
2	1区画	1号遺構	1	3	平丸瓶	40%	金魚・水車・雲付けのみ	-	-	赤胎	現代	
3	1区画	1号遺構	1	3	唐磁器	40%	唐・梅・雲母(貼付)	-	-	コバルト		
4	1区画	1号遺構	1	3	蓋	80%	-	口縁縁部・金	文字あり「美種阿彌 大菩薩」と	磁器調査状		
5	1区画	1号遺構	1	3	皿	40%	-	菊乱文	-	幾何学文様・高台内文 字「...會社...登」	現代	
6	1区画	1号遺構	1	3	飯碗	95%	文字あり「ホムラン」	-	-	子磁器	現代	
7	1区画	1号遺構	1	2	六輪?	-	鉄輪	一筋縁線	-	-	近代系	
8	1区画	1号遺構	1	3	鉢	-	牡丹文・区画文・重層文	-	-	コバルト・靴の日四角 高台・高台内文字あり	江戸後期～	
9	1区画	1号遺構	1	2	蓋(陶丸形)	80%	鉄輪・灰釉成し	鉄輪	-	目録(8・9)	瀬戸・美濃系	
10	1区画	2号遺構	1	3	向付?	20%	-	-	-	-		
11	1区画	焼出前	1	3	丸形碗	99%	山水画(人物・鶴・草・ 山)	-	-	高台内刻印あり「吉山」		
12	1区画	焼出前	1	3	丸形碗	99%	松竹文・口縁部一重層 線	-	-	紫紺線・コバルト・高台 内文字「純器」	現代	
13	1区画	焼出前	1	3	丸形碗	20%	花・草花・月・雲・高 台際二重層線	-	-	高台・重層線・紫紺線 等		
14	1区画	焼出前	1	3	碗?	90%	花	片・口縁部一重層線・高 台際一重層線	-	高台一重層線		
15	1区画	焼出前	1	3	皿	80%	-	-	-	-		
16	1区画	焼出前	1	3	皿	30%	-	動物	-	紫紺線・コバルト		
17	1区画	焼出前	1	3	皿	50%	-	-	-	紫紺線	明治～	
18	1区画	焼出前	1	3	皿	30%	-	押蓋	-	口紅模写・銅胎転写	明治～	
19	1区画	焼出前	1	3	皿	20%	-	口縁部一重層線	黒墨文(水車・小川・山)	-		
20	1区画	焼出前	1	3	皿	30%	-	-	-	紫紺線	明治～	
21	1区画	焼出前	1	3	皿	40%	-	花文	花文	銅胎転写	明治～	
22	1区画	焼出前	1	3	皿	40%	-	動物文(鹿)	動物文(鹿)	銅胎転写	明治～	
23	1区画	焼出前	1	3	向付	20%	蓮	牡丹	二重層線・文字あり唐	梅花・コバルト	明治～	
24	1区画	焼出前	1	3	丸形碗	60%	-	-	-	紫紺線・コバルト	明治～	
25	1区画	焼出前	1	2	銅製口	60%	-	-	-	口紅模写・灰釉	明治～	
26	1区画	焼出前	1	3	蓋	60%	-	-	-	口紅模写・灰釉	明治～	
27	1区画	焼出前	1	2	瀬木鉢(小型)	30%	-	-	-	紫紺線・コバルト	明治～	
28	1区画	焼出前	1	2	蓋	50%	-	-	-	-	近代系	
29	1区画	焼出前	1	2	不明	30%	-	-	-	-	富士系系・江戸後期～ 明治	
30	1区画	焼出前	1	2	黄銅	60%	-	-	-	-	付付たんころ磨・石蓋系	
31	1区画	焼出前	1	2	黄銅	60%	-	-	-	-	付付たんころ磨	
32	1区画	焼出前	1	2	瓶	30%	-	-	-	-	徳化後産物	
33	1区画	焼出前	1	2	瓶	-	-	-	-	江戸末期～明治		
34	2区画	1号遺構	1	4	政書	35%	表紙用・帯文(緑)・花文 (黄)	-	-	手摺り	肥後系・総津律・江戸期 明治～	
35	2区画	1号遺構	1	3	湯瓶碗	30%	口縁二重層線	-	-	-	高台内文字あり「純器」	現代
36	2区画	1号遺構	1	3	湯瓶碗	30%	雲文・幾何学文・流文	口縁部紫文	-	-	-	
37	2区画	1号遺構	1	3	湯瓶碗	-	ススキに煮	-	-	裏面口縁		
38	2区画	1号遺構	1	3	灰磁器	40%	灰質	透明釉	-	-	瀬戸・美濃系	
39	2区画	1号遺構	1	3	平丸瓶	90%	黒墨文	-	-	コバルト・銅胎転写	明治～	
40	2区画	1号遺構	1	3	碗	30%	緑	-	-	コバルト・紫紺	明治～	
41	2区画	1号遺構	1	5	軒平瓦	-	伊豆文	-	-	文字あり「上ササ」		
42	2区画	1号遺構	1	3	平丸瓶	40%	-	紫紺線・丸文の中に表 面・花	-	-		
43	2区画	1号遺構	1	3	湯瓶碗	25%	-	コバルト・銅胎転写・赤 土	-	-	明治～	
44	2区画	2号遺構	1	3	日本鉢	25%	-	-	-	-		
45	2区画	3号遺構	1	2	不明(大谷? 俵印?)	-	-	ナゲ・窪付首	-	-	新橋	
46	2区画	3号遺構	1	2	目録?	16%	-	-	-	-	新橋	
47	2区画	3号遺構	1	3	蓋	95%	-	輪平文	-	-	底部穿孔(成型時?)	
48	2区画	3号遺構	1	3	紫紺器文	20%	非線器文	-	-	-	瀬戸・美濃系	
49	2区画	3号遺構	1	3	平丸瓶	30%	伊豆文	高台際二重 層線	-	コバルト	明治～	
50	2区画	3号遺構	1	3	平丸瓶	15%	松竹文	-	灰釉文	高台内一重層線・コバ ルト・紫紺線	明治～	
51	2区画	3号遺構	1	3	茶碗	-	蓮・鶴・扇刺し	-	-	紫紺・達成後存軸(赤) ・銅胎転写	大正～?	
52	2区画	4号遺構	1	4	蓋	60%	非流文	-	-	紫紺(緑・赤)	近代系	
53	2区画	5号遺構	1	3	平丸瓶	20%	段刺層線(10本)	-	-	-	瀬戸・美濃系?	
54	2区画	5号遺構	1	4	平丸瓶	60%	紫・菊	-	-	色絵(緑・紫)・紫紺線	明治～	
55	2区画	5号遺構	1	3	女ます皿	20%	口縁部梅花・口紅縁部 (高)唐草文	山水文	-	灰質	-	
56	2区画	5号遺構	1	3	湯瓶碗	45%	鳥・木・人物・口縁部一 重層線・高台際二重 層線	-	-	-	コバルト・銅胎転写・純 の目四角高台	明治～
57	2区画	5号遺構	1	3	水筒?	-	竹形・青磁釉	指ナゲ・無釉	-	-	瀬戸・美濃系	
58	2区画	5号遺構	1	2	段糸鉢	-	無釉	黄褐色透明釉	-	-	面灰	
59	2区画	焼出前	1	2	唐(陶丸形)	60%	鉄輪・灰釉成し	鉄輪	-	目録あり(8・9)・胎土 目録のみ	瀬戸・美濃系	
60	2区画	6号遺構	1	3	平丸瓶	20%	非流文	-	-	-		
61	2区画	6号遺構	1	3	鉢	30%	流文	-	-	-		
62	2区画	6号遺構	1	3	丸形碗	30%	人物・扇線	-	-	-		
63	2区画	6号遺構	1	3	皿	40%	-	-	-	紫紺線	明治～	
64	2区画	6号遺構	1	3	皿	30%	-	梅文	梅文	-		

松代城下町跡 (M J82) 出土陶磁器観察表 (2)

調査 番号	出土地点	遺構名	種類	器種	保存率 全・破	外 形	胎 体	装 飾	文 字	其 他	備考	
								内 面	外 面	其 他	調査 時期・年代	
65	2次	6号溝	1	3	90%	文字跡・文字あり [高台跡]	-	-	-	-	明治-	
66	2次	6号溝	1	3	20%	-	-	-	-	-	-	
67	2次	6号溝	1	2	窯	30%	-	-	-	高台内文字あり[書目]	-	
68	2次	6号溝	1	3	窯	20%	-	-	染文	-	-	
69	2次	6号溝	1	3	皿	20%	-	遺書	-	調染転写	明治-	
70	2次	6号溝	1	3	皿	20%	-	-	松竹文	墨転写・コバルト	明治-	
71	2次	6号溝	1	3	窯	40%	絵	-	-	-	-	
72	2次	6号溝	1	3	丸形碗	15%	-	-	-	-	-	
73	2次	6号溝	1	3	丸形碗	30%	人物・高台跡・重層線	-	-	-	-	
74	2次	6号溝	1	3	中皿	10%	高台跡・重層線	葉	葉	-	肥前系	
75	2次	6号溝	1	3	中皿	40%	書字文	-	山水文	高台内文字あり[写帳]	肥前系	
76	2次	6号溝	1	2	壺	60%	-	-	-	-	-	
77	2次	6号溝	1	2	磁鉢	10%	-	放射線り目	-	-	-	
78	2次	6号溝	1	3	皿	70%	高台跡・重層線	-	-	墨転写	明治-	
79	2次	6号溝	1	3	皿	90%	-	-	瓶文	墨転写	明治-	
80	2次	7号溝	1	3	なます椀?	20%	-	-	草花文	絵の目四形高台・呉漆?	明治-	
81	2次	7号溝	1	3	皿	20%	-	-	三文字	コバルト・墨転写	明治-	
82	2次	9号溝	1	4	鉢	50%	葉	-	-	色絵(赤・黄?)	-	
83	2次	9号溝	1	3	皿	50%	葉・高台跡・重層線	-	-	呉漆	-	
84	2次	御溝 Tr	1	3	皿	-	-	-	-	五弁花文	肥前系・1650~1690年代	
85	2次	御溝 Tr	1	4	皿	50%	無施	口縁部重層線	文字あり	-	-	
86	2次	御溝 Tr	1	3	丸形碗	100%	ツマミ跡・重層線・口縁・重層線・行文	-	-	コバルト・墨転写・ツマミ・筆丸あり(口内)	-	
87	2次	御溝 Tr	1	3	高付?	60%	口縁部行文	-	-	書字跡	-	
88	2次	御溝 Tr	1	1	高付皿	25%	深付書	深付書	-	底面赤切り前	-	
89	2次	御溝 Tr	1	3	丸形碗	50%	-	-	-	白磁?	-	
90	2次	御溝 Tr	1	3	磁反形鉢	20%	「寿」字文(大小)・口縁部・重層線	口縁部緑彩?	二重層線	「寿」字文	呉漆	
91	2次	御溝 Tr	1	3	皿	-	おじり文	-	-	二重内面に線	呉漆	
92	2次	御溝 Tr	1	2	香炉?	15%	竹藪?の文様(3ヶ所)	-	-	-	明緑色透明釉	在地系?
93	2次	御溝 Tr	1	3	磁反形鉢	30%	草花文	-	-	放射線り目重層	鉄釉	明治-
94	2次	御溝 Tr	1	2	磁鉢	20%	-	-	-	放射線り目重層	鉄釉	明治-天満系
95	2次	横田跡	1	3	丸形碗	45%	かのこ文に花・唐風人物・高台跡・重層線・書目文	口縁部墨転写	松竹梅文	コバルト・墨転写	明治-	
96	2次	横田跡	1	4	平丸形鉢	35%	草花文・扉形窓内に風文	-	-	色絵(コバルト・緑)・調染転写	明治-	
97	2次	横田跡	1	4	平丸形鉢	25%	葉	-	-	色絵(深緑)・調染転写・調染(コバルト・ピンク)・調染転写	明治-	
98	2次	横田跡	1	4	丸形碗	25%	梅花文	-	-	-	明治-	
99	2次	横田跡	1	3	丸形碗	30%	額目部に目・口縁・重層線・一重層線・高台跡・二重層線	-	-	-	高台内文字あり(成?25)・コバルト	明治-・美濃系
100	2次	横田跡	1	3	窯	35%	文字[中保]	口縁部(赤)・刺葉文・文字あり・煎茶?	-	高台内文字あり[作調]	大正-	
101	2次	横田跡	1	4	磁形碗	65%	高	-	高	色絵	-	
102	2次	横田跡	1	3	磁反形鉢	55%	成舟?	-	-	赤・ツマミ・コバルト	-	
103	2次	横田跡	1	2	白器	95%	柱?	-	-	透明釉	-	
104	2次	横田跡	1	3	瓶(写内磨料器)	-	貫入	-	-	-	青磁釉	明治・美濃系
105	2次	横田跡	1	3	なます椀	50%	-	鳥(鶴?)に葉	-	-	呉漆・梅花・絵の目四形高台	-
106	2次	横田跡	1	3	仏舎利(馬土室)	60%	坏形線・重層線・額目文・高台跡・重層線	-	-	-	呉漆・色磁輪高台・底面赤切り前	-
107	2次	横田跡	1	4	手伝皿	-	花文	口縁部・重層線	一重層線	色絵	-	
108	2次	横田跡	1	3	磁り重鉢	80%	-	書字文・刺葉形・成舟	-	型打成形・コバルト・調染転写	明治-	
109	3次	10号溝	1	1	磁鉢	-	-	-	-	-	-	
110	3次	10号溝	3	-	針金(磁器付録)	100%	-	-	-	-	磁器製(筆丸・2ヶ所)あり	
111	3次	10号溝	1	1	こぼれ	30%	目コハラミガキ	目コハラミガキ	-	-	先端ブズリ	
112	3次	10号溝	1	3	磁反形鉢	70%	松文・口縁部・重層線	二重層線	-	-	-	
113	3次	10号溝	1	3	磁反形鉢	20%	松文	-	-	二重層線内五分花文	高台内・二重層線・呉漆	
114	3次	10号溝	1	3	高台(磨料器)	-	-	-	-	-	呉漆・高台内・一重層線	
115	3次	10号溝	1	3	皿	25%	書字文	内底に花文・磨料器	五弁花文	青磁・口縁部	明治-	
116	3次	10号溝	1	3	皿	20%	書字文	花文	-	-	164~168と同溝跡	
117	3次	10号溝	1	3	皿	30%	口縁部・重層線	-	花文?	呉漆・高台内・一重層線	-	
118	3次	10号溝	1	3	丸形碗	20%	-	-	-	透明釉・書文	-	
119	3次	10号溝	1	3	丸形碗	20%	-	-	-	透明釉・書文	-	
120	3次	10号溝	1	3	丸形碗	20%	額部・高台跡・額目・高台・二重層線	-	-	呉漆	-	
121	3次	10号溝	1	3	磁反形鉢	20%	-	-	-	透明釉・書文	-	
122	3次	10号溝	1	3	壺	25%	胡・車	-	-	呉漆	-	
123	3次	10号溝	1	3	窯	20%	松文	-	-	呉漆	-	
124	3次	10号溝	1	3	丸形碗	20%	鳥・空・口縁部・一重層線	-	-	呉漆・鉄鉢	-	
125	3次	10号溝	1	3	丸形碗	20%	成舟	-	-	呉漆	-	
126	3次	10号溝	1	3	磁反形鉢	20%	成舟	-	-	呉漆	-	
127	3次	10号溝	1	3	丸形碗	30%	雨降り文	成舟?	-	呉漆	-	
128	3次	10号溝	1	3	額口	15%	草花文・口縁部一点層線	-	-	呉漆	磁鉢・書文・額口	
129	3次	10号溝	1	3	額口	25%	松文・口縁部二重層線	-	-	呉漆	書文・額口	

松代城下町跡 (M J 82) 出土陶磁器観察表 (3)

調査番号	出土地点	調査年度	遺構名	種類	数量	材質	保存状態	調査・分析			その他	備考	
								内	外	その他			
130	3次	10号遺構	1	3	楕円	20%	絞文・口縁部二重線	-	-	-	呉須	商業口	
131	3次	10号遺構	1	3	丸形	30%	草花文	-	-	-	呉須・高台内二重線	呉須・高台内二重線	
132	3次	10号遺構	1	3	丸形	20%	草花文	-	-	-	呉須・高台内	くらわんか手・肥前系	
133	3次	10号遺構	1	3	丸形	13%	絞文	-	-	-	二重線内部分	呉須	
134	3次	10号遺構	1	3	丸形	13%	絞文	-	-	-	五分文	呉須・高台(内面黄白)	
135	3次	10号遺構	1	3	鉢	20%	絞文	-	-	-	呉須	呉須	
136	3次	10号遺構	1	3	灰吹?	-	絞文・口縁部一重線	無胎	-	-	呉須	灰土とシ?	
137	3次	10号遺構	1	3	灰吹?	-	絞文・口縁部一重線	無胎	-	-	呉須	絞の目形高台	
138	3次	10号遺構	1	3	平皿	15%	絞部凸	絞文	-	-	呉須	呉須	
139	3次	10号遺構	1	3	平皿	50%	絞部凸	絞文	-	-	呉須	呉須	
140	3次	10号遺構	1	2	小瓶?	17%	絞部・裾下葉部・三足?	-	-	-	ハリ面?ノ用	底部残付者	
141	3次	10号遺構	1	2	鉢	20%	絞部	-	-	-	高台・裾下無胎	織戸・美濃系?	
142	3次	10号遺構	1	2	台子	18%	-	-	-	-	灰吹?	灰吹?	
143	3次	10号遺構	1	3	蓋	7%	山水画・二重線	-	-	-	-	-	-
144	3次	10号遺構	1	4	蓋	25%	草花文	-	-	-	絞部・高台・裏面あり	肥前系	
145	3次	10号遺構	1	3	丸形	25%	-	-	-	-	呉須・絞文	肥前系	
146	3次	10号遺構	1	3	丸形	30%	草花文	-	-	-	呉須・高台内二重線	呉須	
147	3次	10号遺構	1	1	皿	60%	-	-	-	-	カワラケ	在池系	
148	3次	10号遺構	1	2	天目蓋	15%	透明釉に灰緑(黄白色)掛け	-	-	-	-	-	汝様系・明治~
149	3次	10号遺構	1	3	皿	20%	-	-	-	-	ハリ面?ノ用	青磁・口縁部絞花	
150	3次	10号遺構	1	3	皿	60%	絞文・高台内二重線	-	-	-	五分文	呉須・高台内二重線	
151	3次	10号遺構	1	3	香炉	60%	二重山形文・二重線絞文	-	-	-	青磁・絞の目形高台(絞成後)・絞本跡として使用?	中四系?	
152	3次	10号遺構	1	2	付録	80%	-	-	-	-	絞部・高台八角形	越後系	
153	3次	10号遺構	1	2	付録	-	-	-	-	-	絞部・高台	越後系	
154	3次	10号遺構	1	3	蓋	75%	山水画・解部目文	-	-	-	呉須	呉須	
155	3次	10号遺構	1	6	不明	-	-	-	-	-	執事付者・無胎	不明・新品	
156	3次	10号遺構	1	3	蓋	75%	絞文	-	-	-	呉須	呉須	
157	3次	10号遺構	1	3	小皿	50%	絞文	-	-	-	呉須	呉須	
158	3次	10号遺構	1	3	両付	70%	-	-	-	-	透明釉・無文	越後系	
159	3次	10号遺構	1	3	楕円形	35%	絞文	口縁部二重線	二重線内五分文	-	呉須	呉須	
160	3次	10号遺構	1	3	楕円	65%	絞文・横付部二重線	-	-	-	呉須	商業口	
161	3次	10号遺構	1	3	丸形	25%	草花文・高台内二重線	-	-	-	呉須	呉須・高台内文字あり	
162	3次	10号遺構	1	3	皿	99%	花唐草文	花鳥文	-	-	呉須・高台内二重線・高台内ハリ文・裏面	162と同遺物	
163	3次	10号遺構	1	3	皿	80%	花唐草文	花鳥文	-	-	呉須・高台内ハリ文・裏面(ノ用)・高台内二重線	162と同遺物	
164	3次	10号遺構	1	3	皿	80%	唐草文	花文	-	-	呉須・口縁部絞花・高台内二重線・高台内ハリ文・裏面(ノ用)	116-165-168と同遺物	
165	3次	10号遺構	1	3	皿	80%	唐草文	花文	-	-	呉須・口縁部絞花・高台内二重線・高台内ハリ文・裏面(ノ用)	116-164-166-168と同遺物	
166	3次	10号遺構	1	3	皿	75%	唐草文	花文	-	-	呉須・口縁部絞花・高台内二重線・高台内ハリ文・裏面(ノ用)	116-164-165-167-168と同遺物	
167	3次	10号遺構	1	3	皿	75%	唐草文	花文	-	-	呉須・口縁部絞花・高台内二重線・高台内ハリ文・裏面(ノ用)	116-164-166-168と同遺物	
168	3次	10号遺構	1	3	皿	25%	唐草文	花文	-	-	呉須・口縁部絞花・高台内二重線	116-164-167と同遺物	
169	3次	10号遺構	1	3	皿	25%	-	-	-	-	青磁・口縁部・無文	在池系	
170	3次	10号遺構	1	2	湯碗	25%	-	-	-	-	灰吹・無文	在池系	
171	3次	10号遺構	1	2	蓋	100%	絞文	無胎	-	-	-	灰吹?	
172	3次	10号遺構	1	2	蓋	25%	-	-	-	-	-	灰吹?	
173	3次	10号遺構	1	3	碗	40%	絞文	梅花文	-	-	二重線内五分文(クマヤ印)・絞の目形跡	くらわんか手・肥前系	
174	3次	10号遺構	1	2	片口鉢	75%	-	-	-	-	足付・ハヤ割部跡(ノ用)	呉須	
175	3次	10号遺構	1	2	壺	25%	-	-	-	-	底面刻印(印部?)	織戸・美濃系	
176	3次	10号遺構	1	2	1.5cm x 7cm	100%	絞部(ノ用)	-	-	-	-	底面刻印(印部?)	織戸・美濃系
177	3次	10号遺構	1	3	絞部	100%	-	-	-	-	-	底面刻印(印部?)	織戸・美濃系
178	3次	10号遺構	1	3	蓋	75%	絞文	-	-	-	呉須	肥前系	
179	3次	10号遺構	1	3	蓋	80%	-	-	-	-	絞部・無文	二重線系	
180	3次	10号遺構	1	3	丸形	20%	絞部	-	-	-	呉須・高台内(裏面)	肥前系	
181	3次	10号遺構	1	3	皿	90%	-	-	-	-	絞の目形跡	肥前系	
182	3次	10号遺構	1	2	皿	65%	-	-	-	-	絞部・表部跡・目形跡(ノ用)	織戸・美濃系	
183	3次	10号遺構	1	2	丸形	100%	絞文	-	-	-	呉須	肥前系	
184	3次	10号遺構	1	2	片口鉢	25%	-	-	-	-	絞部	織戸・美濃系	
185	3次	10号遺構	1	2	蓋	25%	-	-	-	-	絞部	織戸・美濃系	
186	3次	10号遺構	1	1	皿	40%	-	-	-	-	織成・土に白い斑	在池系	
187	3次	10号遺構	1	1	皿	20%	-	-	-	-	織成・白・明色	在池系	
188	3次	10号遺構	1	2	平皿	70%	-	-	-	-	絞部	織戸・美濃系	
189	3次	10号遺構	1	2	蓋	65%	-	-	-	-	胎土目録凸(ノ用)	ノ用・上面に胎土目録凸(ノ用)・絞部?に長石粒散らし	
190	3次	10号遺構	1	2	鉢	60%	絞部	回紋目形・絞部成し	砂目唐草文(ノ用)	-	-	二重線・肥前系	

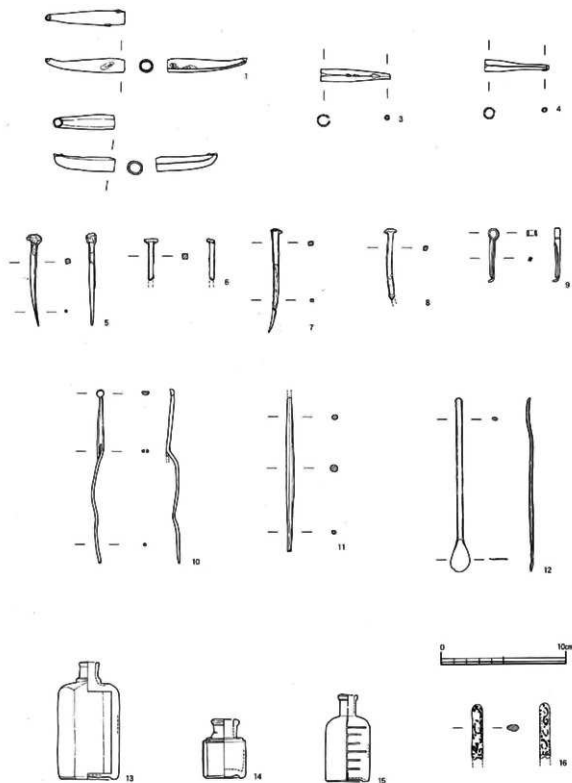
松代城下町跡 (M J 82) 出土陶磁器観察表 (4)

観察番号	出土地点 調査箇所	種類	器種	器体 全径	材質・文様・その他			備考	
					外 装	内 装	見 込		
191	3次面 10号遺構	1 2	鉢	15%	-	-	-	灰釉	奈良系・厚胎類
192	3次面 10号遺構	1 2	部鉢	10%	-	-	-	灰釉厚目	奈良系?
193	3次面 10号遺構	1 2	部鉢	10%	-	-	-	灰釉厚目	肥前系?
194	3次面 10号遺構	1 2	部鉢	-	-	-	-	-	肥前系
195	3次面 10号遺構	1 2	鉢	30%	-	-	-	-	瀬戸・美濃系・厚鉢
196	3次面 10号遺構	1 2	鉢	-	-	-	-	-	朝鮮渡津・江戸初期・肥前系
197	3次面 10号遺構	1 2	鉢	-	-	-	-	目跡	朝鮮渡津・江戸初期・肥前系
198	3次面 10号遺構	1 2	鉢	-	-	-	-	-	肥前系
199	3次面 11号遺構	1 3	不明	60%	牡丹・草文・高台階一重陶縁	-	-	-	高台内二重陶縁・桜の目高台
200	3次面 11号遺構	1 2	花器	70%	花・雲・菊・草・月・雲形文	-	-	-	瀬戸・美濃系(志野)
201	3次面 11号遺構	1 2	皿	-	-	-	-	-	肥前系
202	3次面 11号遺構	1 3	部皿	-	-	-	-	-	肥前系
203	3次面 11号遺構	1 3	湯呑鉢	15%	文字あり「福寿山」	-	-	-	銅胎赤色
204	3次面 11号遺構	1 1	甕	60%	ナデ・筋ケズリ	ナデ	-	-	底部穿孔(後成後)
205	3次面 14号遺構	1 3	皿	40%	唐草文・口縁部一重陶縁・高台階二重陶縁	漢・貝文・口縁部一重陶縁	-	-	高台内一重陶縁・灰帯文字あり
206	3次面 16号遺構	1 2	煎茶碗	30%	-	-	-	-	肥前系泉屋陶器
207	3次面 16号遺構	1 3	煎茶碗	30%	草花文	-	-	-	肥前系
208	3次面 16号遺構	1 3	皿	50%	蘭文	蘭文	-	-	肥前系
209	3次面 16号遺構	1 3	皿	30%	草花文	-	-	-	肥前系
210	3次面 16号遺構	1 3	皿	-	草花文・高台階二重陶縁	蘭文	-	-	肥前系
211	3次面 16号遺構	1 2	皿	20%	-	-	-	-	灰釉
212	3次面 17号遺構	1 3	湯呑鉢	50%	草花文	-	-	-	肥前系
213	3次面 17号遺構	1 3	皿	25%	竹文	-	-	-	肥前系
214	3次面 17号遺構	1 2	丸形鉢	30%	草花文	-	-	-	肥前系
215	3次面 17号遺構	1 2	甕	-	-	-	-	-	京・信楽系?
216	3次面 17号遺構	1 6	土製品	-	-	-	-	-	瀬戸・美濃系・粘土に黒帯を巻く
217	3次面 23号遺構	1 2	皿?	30%	ロタロナデ	ロタロナデ	-	-	肥前系
218	3次面 23号遺構	1 1	甕?	-	ナデ・底部彫刻目	ナデ・筋ナデ	-	-	肥前系
219	3次面 検出面	1 1	小皿	25%	-	-	-	-	粘土に赤い帯色
220	3次面 検出面	1 2	部鉢	30%	-	-	-	-	肥前系
221	3次面 検出面	1 2	丸形鉢	50%	梅文・高台一重陶縁	-	-	-	肥前系
222	3次面 検出面	1 3	鉢	-	蘭日文・高台二重陶縁	-	-	-	肥前系・18c 前
223	3次面 検出面	1 3	皿?	-	一重陶縁・高台二重陶縁	風景文	-	-	肥前系・18c 前
224	3次面 検出面	1 4	皿?	-	-	草花文	-	-	色絵
225	3次面 検出面	1 2	鉢	-	貫入	貫入	-	-	肥前系
226	3次面 検出面	1 2	鉢	-	-	-	-	-	長石緑(志野)
227	3次面 検出面	1 3	鉢	10%	「舟」雲形字	-	-	-	瀬戸・美濃系
228	3次面 検出面	1 3	皿	20%	ツツ目・一重陶縁	-	-	-	肥前系・18c 前
229	3次面 検出面	1 3	鉢	5	百草文	妙蓮形文・夜	-	-	肥前系
230	3次面 検出面	1 2	皿?	-	-	-	-	-	肥前系
231	4次面 1号遺構	1 3	丸形鉢	30%	梅草花文・高台階一重陶縁	-	-	-	高台内一重陶縁内文字あり
232	4次面 1号遺構	1 3	縁口?部鉢?	30%	風景文・二重陶縁・一重陶縁	-	-	-	肥前系・くわかん手
233	4次面 1号遺構	1 3	皿	20%	草花文・二重陶縁	-	-	-	高台二重陶縁
234	4次面 1号遺構	1 3	丸形鉢	75%	草花文・風景文	-	-	-	高台階二重陶縁・高台内一重陶縁
235	4次面 1号遺構	1 3	丸形鉢	5%	草花文	-	-	-	高台階一重陶縁
236	4次面 1号遺構	1 3	皿	10%	梅草花文	-	-	-	肥前系
237	4次面 1号遺構	1 2	皿	5%	-	-	-	-	肥前系
238	4次面 2号遺構	1 3	煎茶碗	30%	草花文(コンニャク印判)	-	-	-	肥前系
239	4次面 6号遺構	1 3	丸形鉢	50%	竹葉文	-	-	-	灰釉
240	4次面 6号遺構	1 4	皿	30%	丁字文	-	-	-	-
241	4次面 6号遺構	1 2	片口?	-	-	-	-	-	-
242	4次面 24号遺構	1 3	香炉?	5%	一重陶縁・高台階二重陶縁	-	-	-	焼締

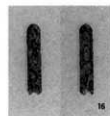
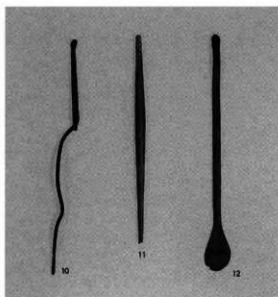
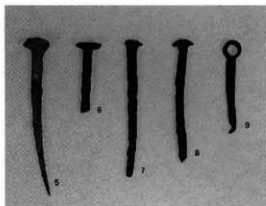
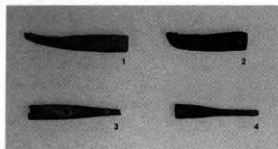
凡例

- 焼割-1 土器・土製品 2 石製品 3 金属製品 4 磁器製品 5 ガラス製品 6 その他の遺物
- 焼割-1 土器・カワケ 2 陶器 3 磁器(樂付) 4 磁器(色絵) 5 瓦・土管 6 その他の土製品
- 残存率

全体一定形品に対する割合を百分率で示している



第29図 金属・骨角・ガラス製品実測図 (S=1/3)



その他の遺物観察表

図版 番号	出土地点	調査面	遺物名	類別	種別	材質	名称	法量 (mm)				備考
								a	b	c	d	
1	1次面	牧田部	3	鍔首	銅合金	鍔首鍔首	6.3	1.1 (高さ)	1.0 (小口径)	-	次第欠損・内面磨字残存	
2	1次面	1号遺構	3	鍔首	銅合金	鍔首鍔首	4.9	1.4 (高さ)	1.1 (小口径)	-	次第欠損	
3	3次面	16号遺構	3	鍔首	銅合金	鍔首吸口	5.5	0.9 (小口径)	0.4 (小口厚)	-	11付部欠損	
4	3次面	16号遺構	3	鍔首	銅合金	鍔首吸口	5.1	0.9 (小口径)	0.4 (小口厚)	-	11付部欠損	
5	4次面	6号遺構	3	針	鉄	頭巻針	7.2	1.2 (頭部幅)	0.5 (体部幅)	0.3 (厚さ)		
6	4次面	6号遺構	3	針	鉄	頭巻針	3.2	1.1 (頭部幅)	0.4 (体部幅)	0.4 (厚さ)		
7	4次面	6号遺構	3	針	鉄	頭巻針	8.0	0.8 (頭部幅)	0.5 (体部幅)	0.3 (厚さ)		
8	4次面	6号遺構	3	針	鉄	頭巻針	5.5	0.9 (頭部幅)	0.4 (体部幅)	0.4 (厚さ)	先端部欠損	
9	3次面	16号遺構	3	金具他	鉄	不明鉄製品	4.2	0.8 (幅)	0.4 (厚さ)	-	頭部傷痕を呈する・鍔部金具か	
10	2次面	1号遺構	3	目形品	銅	針	13.0	0.52 (幅)	0.3 (厚さ)	-		
11	3次面	17号遺構	6	目形品	銅	耳環	12.0	6.0 (幅)	-	-	頭部・先端部共に欠損	
12	1次面	牧田部	3	目形品	銅合金	鍔首	13.6	0.45 (幅)	1.5 (頭部幅)	0.3 (厚さ)	完全・頭部背面も小欠損	
13	1次面	1号遺構	5	目形品	ガラス	硝子瓶	9.1	1.6 (口径)	4.9 (幅)	2.4 (厚さ)	化粧品類の残骸	
14	2次面	牧田部	5	目形品	ガラス	硝子瓶	4.6	2.2 (口径)	3.4 (幅)	-	インク瓶	
15	3次面	16号遺構	5	目形品	ガラス	硝子瓶	6.8	1.55 (口径)	3.5 (幅)	-	実用・目盛り付	
16	3次面	12号遺構	5	目形品	ガラス	壺?	4.3	0.8 (幅)	0.6 (厚さ)	-	壺口文・鉄線痕あり	

凡例

○類別→1:土器・土製品 2:石製品 3:金属製品 4:植物製品 5:ガラス製品 6:その他の遺物

○法量→a:全長ないし全高を指す



①-1



①-2、3



④-25



③-4



③-11



③-3



③-30~35



④-1

第三章 まとめ

第1節 絵図史料から見る土地利用

開発予定地は松代町の中心部にあたり、武家屋敷の推定地である。それも1軒当たりの屋敷地面積が大きいことを考慮すれば、松代藩の政治体制のなかでも比較的上級武士の屋敷地と考えられる。真田家文書などの古文書や絵図面などに記載された当該地における土地利用の推移について、災害との関係から概説する。

近世松代城下町の災害については、大火をまとめた北村保（北村1987・1992）や、戊の大満水を考察した丸山岩三（丸山1990）の論文がある。今回の発掘調査では、明確な洪水層については確認できなかったが、焼土層からは多量の出土遺物に恵まれた。しかし焼土層は上層の攪乱による混入が著しく、明確な時期比定はできなかった。北村の考察により、今回の発掘調査地である殿町が被災した大火を挿入して土地利用の推移を見てみたい。

1	2004（平成16）年	八十二銀行松代支店（新築開店）
2	2003（平成15）年	更地（発掘調査実施）
3	～2002（平成14）年	松代ショッピングセンター（西友松代店）
4	1955（昭和30）年代	原松代製糸所
5	1913（大正2）年	本六工社製糸松代出張所？
●	1870（明治3）年	午札騒動
6	1868（明治初）年	飯島新兵衛
7	1850（嘉永3）年頃	恩田孝太郎
●	1847（弘化4）年	善光寺大地震
8	1826（文政9）年	恩田右膳
●	1800（寛政12）年	市場火事
●	1788（天明8）年	河内屋火事
9	1750（寛延3）年	恩田新六
●	1742（寛保2）年	戊の大満水
●	1733（享保18）年	荒町火事
●	1717（享保2）年	湯本火事

発掘調査では江戸時代後期までの遺物しか確認できていないが、恩田家の屋敷地と考えられる。参考までに『真田家中明細書』に記された前述の2名について、その役職などの推移を挙げる。

● 恩田右膳（高500石）

1	1781（安永10）年	御用人見習
2	1787（天明7）年	家督相続
3	1815（文化12）年	50石加増
4	1824（文政7）年	御城代

● 恩田孝太郎（高500石）

1	1834（天保5）年	家督相続
2	1846（弘化3）年	孝太郎 義 新六と改名
3	1848（嘉永2）年	御側御用人
4	1853（嘉永6）年	惣御旗奉行
5	1860（安政7）年	大目付
6	1862（文久2）年	御城代
7	1863（文久3）年	御中老職
8	1867（慶応3）年	御城代
9	1871（明治4）年	大尉

第2節 遺構から見た武家屋敷地の一様相

今回の発掘調査にて検出された遺構のうち、江戸時代と考えられる遺構は③次面以下、つまり焼土層（③-10・15-17）、建物跡（③-18-23・29・34・35）、土坑（③-30・④-2）、溝状遺構（③-11・12・31-33・④-5・7）埋め桶（③-3・4・④-25）、池状遺構（④-1・6・24）などがある。これらの性格としては文献の記載にある恩田家の屋敷に關係する遺構である可能性が考えられる。建物遺構は、松本城下町跡の発掘調査成果によると、16世紀後半は掘立柱建物が主流であり、17世紀前半には掘立柱建物が消滅し、礎石・布掘り礎石へ変化するという（竹内2000）。今回の発掘調査では16・17世紀代の遺構は未確認であるが、松代においても同様な傾向がみられるものと考えられる。

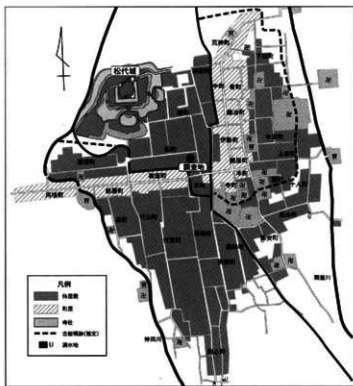


図20 松代城下町の土坑分布図
(長野県史(1823年版)、松代1968年調査・撮影)

第3節 水関係の遺構

水関係の遺構としては、木樋・竹樋、分かれ橋・集水橋、井戸などは検出されなかったが、石組み溝（③-11・④-7）や木組み溝（③-12）、池状遺構（④-1・6・24）があげられる。

石組み溝（③-11）は前述のとおり、現状においては雨落ち溝程度の規模ではあるが、国立史料館所蔵の「真田家文書」(26A さ1156、時期不明ながら19世紀前半か?)には、当該地を斜めに流れる泉水路が描かれており、これに該当する可能性も否定できない。また直接的な関係は不明であるが、排水機能が想定される木組み溝（③-12）と池状遺構（④-24）と切り合っており、泉水路としての機能を想定する一助となりうるであろう。松代には全国的にも珍しい、様々な水系システムが存在している（長野市教委1982）。道路の中心を流れる「カワ」、宅地裏の境界線である背割を流れ武家地の菜園を潤す「セギ」、生活用水として屋敷地の泉水を直接つなく「泉水路」である。松代中央線の発掘調査で確認された木樋による上水施設の存在が明らかとなり、松代城下町全体において複雑で高度な水道施設が整備されていたことが推測できる。

引用・参考文献

- 飯田市教育委員会 2001 『飯田城下町遺跡』
- 飯山市教育委員会 2002a 『飯田城下情報センター敷地内遺跡』飯山市埋蔵文化財調査報告 第65集
- 飯山市教育委員会 2002b 『長野県史跡飯山城跡遺構確認調査報告書』飯山市埋蔵文化財調査報告書 第67集
- 江戸遺跡研究会編 2001 『図説 江戸考古学研究辞典』柏書房
- 江戸東京博物館編 1993 『江戸東京博物館総合案内』財団法人江戸東京歴史財団
- 大塚初重ほか 1994 『八百八町の考古学』シンポジウム江戸を掘る 山川出版社
- 大橋康二編 1988 『肥前磁器の変遷図』『別冊太陽 古伊万里』日本のこころ63 平凡社
- 大橋康二 1989 『肥前陶磁』考古学ライブラリー-55 ニュー・サイエンス社
- 大橋康二 2000 『九州陶磁概論』九州陶磁の編年 九州近世陶磁学会10周年記念 図録
- 大橋康二 1995 『建築史からみた発掘資料』『季刊考古学』第53号 特集江戸時代の発掘と文化 雄山閣出版
- 北原親子 1999 『江戸城外堀物語』ちくま新書209 筑摩書房
- 北村 保 1987 『松代藩士の見聞録にみる江戸後期の松代城下町』『松代—真田の歴史と文化—一冊刊号 真田宝物館
- 北村 保 1992 『近世松代火難雜考』『松代—真田の歴史と文化— 第5号 真田宝物館
- 北村 保 1993 『享保二年松代城大火災失録』『松代—真田の歴史と文化— 第6号 真田宝物館
- 古泉 弘 1983 『江戸を掘る—近世考古学への招待—』柏書房
- 古泉 弘 1985 『江戸の街の出土遺物—その展望—』『季刊考古学』第13号 特集江戸時代を掘る 雄山閣出版
- 古泉 弘 1987 『江戸の考古学』考古学ライブラリー-48 ニュー・サイエンス社
- 国立史料館編 1986 『真田家中明細書』財団法人東京大学出版会
- 斎藤 進 1997 『沙留遺跡における上水施設について』『沙留遺跡1』東京都埋蔵文化財センター調査報告第37集
- 坂詰智美 1999 『江戸城下町における「水」支配』専修大学出版局
- 佐々木邦博・米林由美子・平岡直樹 2001 『城下町松代(殿町地区)において江戸時代に造られた泉水路の形成過程とその用途』『日本造園学会誌』VOL.64 NO.5 日本造園学会
- 佐々木達夫 1985 『物資の流れ—江戸の陶磁器—』『季刊考古学』第13号 特集江戸時代を掘る 雄山閣出版
- 東川典興・山下伊千造・南志郎 1992 『千曲川下流の歴史洪水の復元と考察』『土木史研究』第12号
- 信州大学工学部建築工学科松本研究室 1984 『長野市松代三町伝統環境保存計画策定調査報告書』
- 新宿区内藤町跡調査会ほか 1992 『内藤町遺跡』
- 竹内誠監修 2002 『ビジュアルガイド江戸時代館』全1巻 小学館
- 竹内 靖長 2000 『松本城下町における成立過程の様相』『信濃』第52巻第10号 通巻第609号 信濃史学会
- 東京大学埋蔵文化財調査室 1998 『東京大学構内遺跡調査研究年報』2
- 東京都教育委員会 1991 『東京の遺跡展—お江戸八百八町地下探険—』図録
- 長野市教育委員会 1982 『庭園都市 松代』伝統的建造物群保存対策調査報告書
- 長野市教育委員会 1984 『調いのある庭園都市づくり』
- 長野市教育委員会 1993 『史跡 松代藩主真田家墓所』長野市の埋蔵文化財第59集
- 長浜文化財シンポジウム実行委員会 2000 『近世城下町の諸相』シンポジウム発表資料
- 日本貨幣商協同組合 2001 『日本貨幣カタログ』
- 林英夫・青木美智男編 2001 『事典 しらべる江戸時代』柏書房
- 降矢 智男 2001 『甲信地方における肥前陶磁の出土状況について』『国内出土の肥前陶磁』第11回九州近世陶磁学会資料
- 堀越 正雄 1995 『日本の上水』増補改訂 新人物往來社
- 本田博太郎 1970 『松代町の民家』長野県教育委員会
- 松代藩文化施設管理事務所 1999 『城下町松代』真田宝物館開館三〇周年記念 特別展図録
- 松本市 1989 『史跡松本城北外堀土塁発掘調査報告書』
- 松本市教育委員会 1989a 『史跡松本城黒門枘形内発掘調査報告書』
- 松本市教育委員会 1989b 『松本市城西西馬出遺跡緊急発掘調査報告書』松本市文化財調査報告書 No.79
- 松本市教育委員会 1996 『松本城下町跡 伊勢町—近世・町屋跡の発掘調査—』松本市文化財調査報告書 No.122
- 松本市教育委員会 1997 『松本城下町跡 伊勢町第8・9・12次、本町第1・2次』—平成8年度試掘調査報告書— 松本市文化財調査報告書 No.129
- 松本市教育委員会 2000 『松本城下町 本町第5次、伊勢町第19・21・22次、中町第1・2次、宮村町第1次』—平成10・11年度試掘調査報告書— 松本市文化財調査報告書 No.149
- 松本市教育委員会 2001 『松本城下町 伊勢町第23・24・25次』—平成12年度試掘調査報告書— 松本市文化財調査報告書 No.154
- 丸山 岩三 1990 『寛保2年の千曲川洪水に関する研究(1)~(4)』『水利科学』第34巻第1~4号
- 山田啓一・田辺淳 1985 『千曲川における寛保2年(1742)8月大洪水の考察』『第5回日本土木史研究発表会論文集』

報告書抄録

ふりがな	まつしろじょうかまちあと ～とのまち～						
書名	松代城下町跡(2)～殿町～						
副書名	八十二銀行松代支店新築工事にともなう埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ名	長野市の埋蔵文化財						
シリーズ番号	第110集						
編著者名	飯島哲也・宮沢浩司・森田利枝						
編集機関	長野市教育委員会 長野市埋蔵文化財センター						
所在地	〒381-2212 長野県長野市小島田町1414番地 TEL 026-284-0004・FAX 026-284-0106						
発行年月日	2005(平成17)年3月31日						
印刷所	奥山印刷工業株式会社(〒381-0022 長野市大豆島本郷前5959-1 TEL 026-221-3243)						
所収遺跡	所在地	コード		経緯度	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号				
松代城下町跡 <small>まつしろじょうかまちあと</small>	長野県長野市松代町 <small>まつしろ</small> 松代174-1 他	20201	F-033	北緯 36° 33' 34" 東経 138° 12' 11"	20031001 ～ 20031106	390㎡	店舗建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
松代城下町跡	集落跡	江戸時代後期	石組溝状遺構、埋め桶、土坑	陶磁器、土器・土製品 金属製品(釘、煙管、 筭など) 骨角製品(耳掻き) ガラス製品(瓶など)			
		江戸時代末期～ 明治時代初期	石組溝状遺構、木組溝状遺構石、埋桶、土坑				
		明治時代前期～ 昭和初期	石積み遺構、暗渠遺構				
		昭和	板組遺構、溝状遺構				
要約	調査地は、松代城下町の中央部に位置し、上級武士の屋敷地にあたる。調査では、江戸時代後期から明治にかけての埋め桶や石組みの溝状遺構、土坑などを確認した。						

長野市の埋蔵文化財 発掘調査報告書一覽

1966年	第1集	【信濃長原古墳群】	1994年	第60集	【賀平遺跡・宮ノ下遺跡】
1976年	第2集	【浅川西条】	第61集	【栗田城跡(2)】	
1978年	第3集	【中村遺跡】	第62集	【浅川扇状地遺跡群 三輪遺跡(5)・小島御原遺跡群 上小島遺跡】	
	第4集	【塩崎遺跡群】	第63集	【松原遺跡IV】	
1979年	第5集	【塩崎遺跡群(2)】	第64集	【小島御原遺跡群 宮西遺跡】	
1980年	第6集	【三輪遺跡・付水内宮一元神社遺跡】	第65集	【浅川扇状地遺跡群 牟礼バイパスB地点遺跡(2)】	
	第7集	【田中沖遺跡】	第66集	【石川集里遺跡(8)】	
	第8集	【篠ノ井遺跡群】	1995年	第67集	【浅川扇状地遺跡群 本村東沖遺跡Ⅱ】
	第9集	【関ノ原遺跡(第1～3次)・徳間遺跡・塩崎遺跡群(3)】	第68集	【栗田城跡(3)】	
1981年	第10集	【湯空古墳群・長比山古墳群・駒沢町可遺跡】	第69集	【浅川扇状地遺跡群 徳間半堂屋遺跡】	
	第11集	【筋清水遺跡・大峰遺跡・大清水遺跡】	第70集	【八幡田沖遺跡】	
1982年	第12集	【浅川扇状地遺跡群・牟礼バイパスA・E地点】	第71集	【浅川扇状地遺跡群 ニツ宮遺跡(2)・吉田町東遺跡】	
1983年	第13集	【浅川扇状地遺跡群 穂田遺跡】	第72集	【塩崎遺跡群(8)・石川集里遺跡(9)】	
	第14集	【石川集里の遺構(2)・上駒沢遺跡】	第73集	【松代城跡Ⅱ】	
	第15集	【筋清水遺跡(2)】	第74集	【松代城跡Ⅲ】	
1985年	第16集	【石川集里の遺構(3)・(付上駒沢遺跡)】	1996年	第75集	【浅川扇状地遺跡群 吉田川フ層遺跡・三輪遺跡(6)・粟河原遺跡】
1986年	第17集	【浅川扇状地遺跡群 牟礼バイパスA・C・B地点】	第76集	【浅川扇状地遺跡群 駒沢城跡・小島御原遺跡群 中伏遺跡】	
	第18集	【塩崎遺跡群IV 市道松原一小田井神社地点遺跡】	第77集	【浅川扇状地遺跡群 松ノ木田遺跡】	
1987年	第19集	【上口将軍塚古墳・重要遺跡群緊急調査-】	第78集	【有楽塚・号古墳・2号古墳】	
	第20集	【三輪遺跡(2)】	1997年	第79集	【駒尾遺跡】
	第21集	【芹田小学校遺跡】	第80集	【小島・柳原遺跡群 水内宮一元神社遺跡Ⅱ】	
	第22集	【長野市立高校グラウンド遺跡】	第81集	【新花川扇状地遺跡群 村西遺跡】	
1988年	第23集	【横田古墳群 富士宮遺跡】	第82集	【浅川扇状地遺跡群 松ノ木田遺跡Ⅱ】	
	第24集	【塩崎遺跡群V 駒沢城遺跡】	第83集	【下葉ヶ谷遺跡】	
	第25集	【小島御原遺跡群 南川向遺跡】	第84集	【浅川扇状地遺跡群 吉田川御堂遺跡】	
	第26集	【東多摩遺跡】	第85集	【上九反遺跡】	
	第27集	【小巻見城跡】	第86集	【新花川扇状地遺跡群 寺村遺跡】	
	第28集	【宮崎遺跡】	1998年	第87集	【長野遺跡群 西町遺跡】
	第29集	【浅川扇状地遺跡群 浅川扇遺跡】	第88集	【小島御原遺跡群 水内宮一元神社遺跡Ⅲ】	
	第30集	【地附山古墳群】	第89集	【新花川扇状地遺跡群 尾張城跡】	
	第31集	【町田田遺跡】	第90集	【青森山古墳】	
1989年	第32集	【中島遺跡】	第91集	【新花川扇状地遺跡群 西方遺跡・中沢城跡】	
	第33集	【鶴前遺跡】	第92集	【松原遺跡V】	
	第34集	【石川集里遺跡(4)】	第93集	【粟河原遺跡(2)・田中沖遺跡Ⅱ】	
	第35集	【篠ノ井遺跡群Ⅱ】	第94集	【浅川扇状地遺跡群 中伏城遺跡】	
1990年	第36集	【埋蔵遺跡Ⅲ】	1999年	第95集	【堀内遺跡群 高野遺跡】
	第37集	【篠ノ井遺跡群Ⅲ】	2000年	第96集	【南宮遺跡Ⅱ】(第1分層・遺構編)
1991年	第38集	【栗田城跡・下宇半遺跡・三輪遺跡(3)】	2001年	第96集	【南宮遺跡Ⅱ】(第2分層・遺物編)
	第39集	【塩崎遺跡群(6)・石川集里遺跡(5)】	第97集	【長野市立高校グラウンド遺跡Ⅱ】	
	第40集	【松原遺跡】	第98集	【川田武蔵跡・岩崎遺跡Ⅱ】	
	第41集	【小島御原遺跡群 中伏遺跡・浅川扇状地遺跡群 押鎌遺跡・穂田遺跡】	第99集	【浅川扇状地遺跡群 徳間榎田遺跡】	
1992年	第42集	【田中沖遺跡Ⅱ】	2002年	第99集	【南宮遺跡Ⅱ】(第3分層・写真編)
	第43集	【南宮遺跡】	第100集	【関ノ原遺跡Ⅱ】	
	第44集	【塩崎遺跡群(7)】	第101集	【篠ノ井遺跡群(5)】	
	第45集	【石川集里遺跡(6)】	2003年	第102集	【浅川扇状地遺跡(2)・差出遺跡 三合塚西古墳・石川集里遺跡(10)】
	第46集	【篠ノ井遺跡群(4)】	2004年	第103集	【篠ノ井南条遺跡・浅川扇状地遺跡群 辰巳池遺跡・浅川扇状地遺跡群 本町宮遺跡】
	第47集	【浅川扇状地遺跡群 ニツ宮遺跡・水堀遺跡・柳田遺跡・稲添遺跡(2分層)】	第104集	【浅川扇状地遺跡群 天神水遺跡・橋爪遺跡・梅原堂遺跡】	
1993年	第48集	【小島御原遺跡群 中伏遺跡Ⅱ】	第105集	【浅川扇状地遺跡群 穂田遺跡(2)】	
	第49集	【浅川扇状地遺跡群 三輪遺跡(4)】	2005年	第106集	【堀内遺跡群 南条遺跡】
	第50集	【浅川扇状地遺跡群 本村東沖遺跡】	第107集	【新花川扇状地遺跡群 西方遺跡(2)】	
	第51集	【松原遺跡Ⅲ】	第108集	【浅川扇状地遺跡群 駒取宮西遺跡・梅原堂遺跡・吉田古歴敷遺跡・湯目遺跡】	
	第52集	【田代坂遺跡】	第109集	【松代城下町跡 ～中木町・西木町・榎原町～】	
	第53集	【岩崎遺跡】			
	第54集	【古町遺跡法人塚】			
	第55集	【浅川扇状地遺跡群 駒沢町可遺跡Ⅱ】			
	第56集	【上見林遺跡】			
	第57集	【石川集里遺跡(7)】			
	第58集	【松原遺跡Ⅳ】			
	第59集	【史跡松代藩主真田家墓所】			

長野市の埋蔵文化財第110集

松代城下町跡(2) ～殿町～

平成17年3月24日 印刷

平成17年3月31日 発行

発行 長野市教育委員会

編集 文化財課埋蔵文化財センター

印刷 奥山印刷工業株式会社